

令和7年度
市民活動団体活動状況調査事業
報告書

令和7年8月

NPO 法人えべつ協働ねっとわーく

理事長 奈良 幸則

〒069-0824 江別市東野幌本町6番地43

市民交流施設「ぷらっと」内

江別市民活動センター・あい

<目 次>

1. 調査の概要	01
2. 調査結果からの所見	02
3. 調査結果の概要	03
4. 調査結果の内容	
団体（グループ）の概要について.....	05
(1) 団体（グループ）の会員について.....	11
(2) 団体（グループ）の組織・運営について.....	13
(3) 団体（グループ）の悩みごと等について.....	17
(4) 団体（グループ）の周知啓発について.....	25
(5) 市民活動センター・あいについて.....	28
(6) 行政や他団体との協働・連携について.....	32
(7) 協働のまちづくり活動支援事業について.....	39
(8) 認定NPO法人制度について.....	42
(9) その他.....	43
資料1 平成13年～令和7年の調査結果との比較.....	45
資料2 調査票.....	48

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査により市民活動団体の活動状況や課題等の把握を行い、支援方法や協働のあり方の検討に役立てるための基礎資料を得ることを目的とする。

(2) 対象団体

前回調査の対象となった団体リストを元に、追加となった団体や解散した団体の情報を加え、選定した。

(3) 調査対象の範囲

対象団体として、江別市民を対象に活動する団体、市内に事務所（活動拠点）を置く団体、市内を活動場所としている団体で「継続的、自発的に社会的活動を行なう営利を目的としない団体」を調査対象とした。なお、次の①から③の団体は対象外としたが、本来の活動以外にボランティア活動など社会的活動を行なっている場合は対象とした。

- ①特定非営利活動法人（NPO法人・一般社団法人）以外の公益法人等（財団法人、商工会議所、医療法人、社会福祉法人、宗教法人、労働組合等）
- ②有限会社、株式会社、協同組合等の法人格を持つ団体
- ③その他の団体（消防団、民生委員協議会、自治会、PTA、同窓会等）

(4) 調査時期

2025年(令和7年)5月中旬～6月

(5) 調査方法

対象団体に対して郵送で調査票を送付した。また、回答は封筒での返送またはオンラインでの回答で回収した。

(6) 回収結果

- ・調査対象団体（グループ）：219
- ・回答団体（グループ）：125 うちオンライン回答 36（回収率：紙面 40.7%、オンライン 16.4% 計 57.1%）
（内、団体の解散予定等の理由による回答拒否または白紙回答：5件）

(7) 集計にあたって

回答率（%）は、その設問の回答数を基数として算出した。設問毎の無回答は有効回答数に含めなかった。

2. 調査結果からの所見

この調査は、平成13年より4年ごとに実施され、今回で7回目となる。25年以上にわたり継続してきたことで、市民活動を取り巻く状況の変化や団体の課題の推移が明らかになり、今後の支援の方向性を検討する基礎資料となることが期待される。

会員構成については、会員数は「1～10人」「11～50人」といった小規模から中規模の団体が増加する一方で、100人を超える大規模団体は減少している。年齢層では依然として60代・70代が中心であり、高齢化傾向が進んでいる。10代・20代や80代以上の割合も増加しているが、40代・50代は減少しており、世代間の偏りが一層顕著となっている。新規会員や後継者の確保が引き続き重要な課題である。

活動状況を見ると、「活発」「やや活発」と回答した団体が84.5%を占め、前回から大きく増加した。コロナ禍による活動制限が緩和されたこともあり、停滞・休止と回答した団体は減少傾向にある。活動の継続や拡大に向けて、再び団体が動き出している様子が伺える。

活動資金は「10万円未満」「10～50万円未満」と回答する団体が増加しており、低予算での運営が進んでいる。人件費についても「0～5万円」と「25万円以上」がそれぞれ多く、団体ごとの支出規模の差が広がっていることが分かる。

情報発信では、依然としてチラシや新聞、広報紙といった紙媒体が中心であるが、SNSやホームページを活用する団体も一定程度見られる。発信手段は多様化しているものの、デジタル活用は十分に浸透しているとは言えず、今後の課題といえる。

協働・連携に関しては、約8割以上の団体が実績を有しており、市民活動団体同士や行政との連携も広がっている。特に「イベント等や必要に応じて協働する」という形態が多く、地域課題に応じた柔軟な連携が進んでいることが分かる。今後はさらに、団体同士のマッチングや情報共有の仕組みを強化することが求められる。

江別市民活動センター・あいについては、利用経験のある団体が増加しており、会議室や印刷機の利用に加えて、広報や交流の場としての役割も一定程度果たしている。しかし、相談機能や中間支援としての機能は十分に活用されていない現状であることから、NPOや市民活動の相談、団体間の交流会等、センターの取組の周知を進め、中間支援団体としての機能を高めることが今後求められる。

3. 調査結果の概要

①活動団体数：増加しており、活動も活発化

前回の調査（2022年1月）以降、8団体が新たに設立されている。活動状況については、「活発」「やや活発」と回答した団体が84.5%となり、前回の62%から大幅に増加した。一方で「停滞」と回答した団体は12.9%に減少し、休止・解散予定と回答した団体も少なくなっている。

②活動分野：幅広い分野での活動が展開

活動分野では「社会教育・生涯学習」が最も多く、次いで「子ども・青少年の健全育成」「文化」となっている。最も力を入れている分野では「子ども・青少年の健全育成」と「障がい者福祉」が同率で最多となり、前回に比べて多様な分野での取り組みが進んでいる。

③会員構成：高齢化が進行

会員数は「1～10人」「11～50人」の小規模団体が増加しており、101人以上の大規模団体は減少した。会員年齢層では、60代（28.4%）と70代（36.2%）が引き続き中心であり、高齢化が一層進行している。10代・20代、80代以上も増加している一方、40代・50代は減少しており、世代間の偏りが大きくなっている。

④団体運営：低予算化と人件費の格差が拡大している

活動資金は「10万円未満」（37.1%）と「10～50万円未満」（33.6%）が増加しており、全体として低予算化が進んでいる。人件費については「0～5万円」と「25万円以上」がそれぞれ多く、団体によって人件費にかかる額の差が広がっている。

⑤活動の悩み：人材確保と情報発信が課題

活動上の悩みとして「活動に参加したい人の情報が得にくい」が最も多く43.5%を占めたほか、「活動をPRする手段が少ない」「他団体との交流や情報交換の機会がない」との回答も多い。会員数や後継者不足といった人材確保の課題は引き続き大きな問題となっている。

⑥活動情報の発信：紙媒体中心だが多様化が進む

情報発信では「イベント等での発信」（26.8%）が最も多く、次いで「会報・パンフレット」（25.3%）、「新聞・地域情報誌」（22.1%）となっており、依然として紙媒体が中心である。一方で、SNSやホームページの活用も前回調査よりも一定程度見られ、デジタル発信は徐々に広がりつつある。

⑦協働・連携：地域課題に応じた柔軟な連携が拡大

協働・連携の実績を有する団体は約8割を占めており、市民活動団体同士の連携も増加している。特に「イベント等や必要に応じて協働する」との回答が多く、地域課題に応じた柔軟な協力体制が広がっている。今後は、団体同士をつなぐマッチングや情報共有の仕組みがさらに重要となる。

⑧今後の活動促進：資金・人材確保が重要

活動をさらに発展させる方法として、「若い世代に積極的に参加してもらおう」が20.3%で最も多く、次いで「情報発信による認知度向上」「活動に参加したい人の情報を得る」「人員の確保」が続いている。資金や人材、時間の確保が依然として活動促進の大きな課題である。

⑨活動の場：市民活動センターの役割・ニーズを高める

江別市民活動センター・あいの利用経験がある団体は増加しており、会議室や印刷機の利用に加え、広報や交流の場としても活用されつつある。ただし、相談機能や中間支援機能については十分に浸透していないため、センターの活動・取組の周知を高めていく。

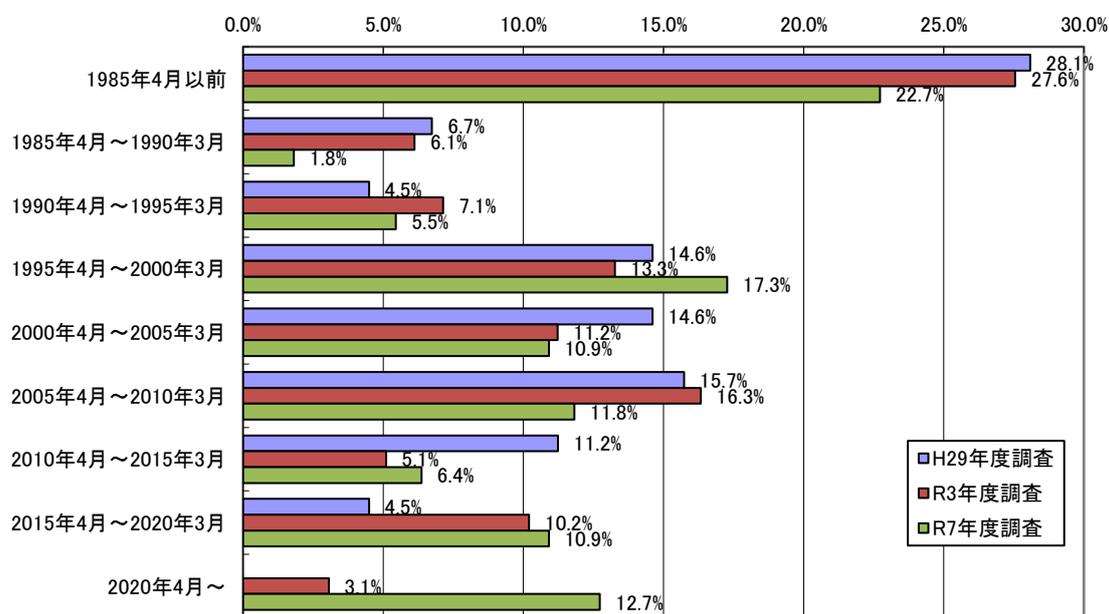
4. 調査結果の内容

団体（グループ）の概要について

【自己紹介表①】団体の設立年月と設立数

項目	回答数	率
1985年4月以前	25	22.7%
1985年4月～1990年3月	2	1.8%
1990年4月～1995年3月	6	5.5%
1995年4月～2000年3月	19	17.3%
2000年4月～2005年3月	12	10.9%
2005年4月～2010年3月	13	11.8%
2010年4月～2015年3月	7	6.4%
2015年4月～2020年3月	12	10.9%
2020年4月～	14	12.7%
合計	110	100.0%

団体基本概要：団体設立年H29年度、R3年度、R7年度比較



1985年4月以前から活動している団体は前回27.6%から22.7%へ減少している。1995年4月～2000年3月に設立された団体は13.3%から17.3%へ増加した。また、2020年以降に設立された団体は3.1%から12.7%へ大きく伸びており、新しい団体の増加が顕著となっている。

【自己紹介表②】会則の有無

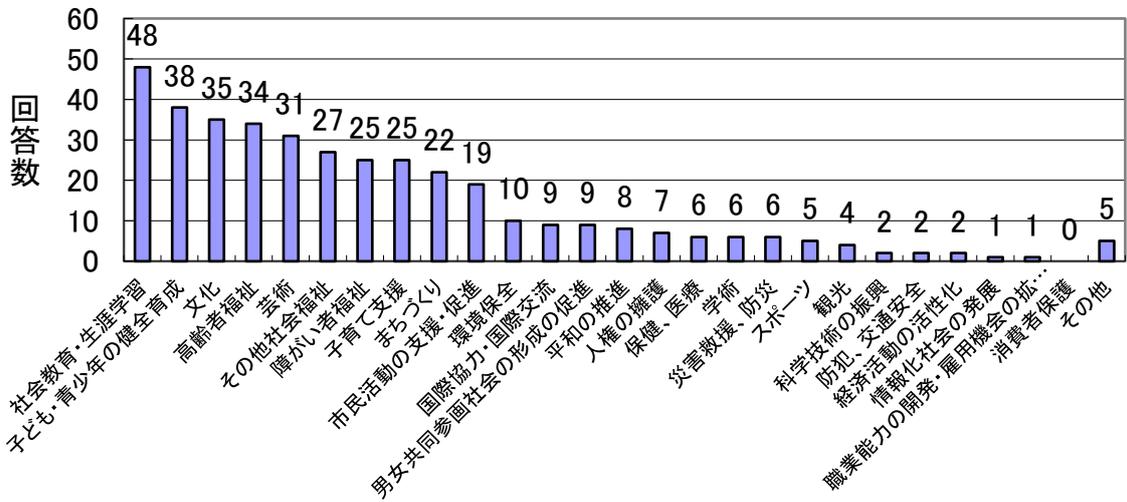
項目	今回調査		前回調査(R3)	
	回答数	率	回答数	率
有り	96	82.8%	85	87.6%
無し	20	17.2%	12	12.4%
合計	116	100.0%	97	100.0%

会則のある団体は前回87.6%から82.8%へ減少しているが、多くの団体が活動方針を明確にしている。

【自己紹介表③】団体の活動分野について

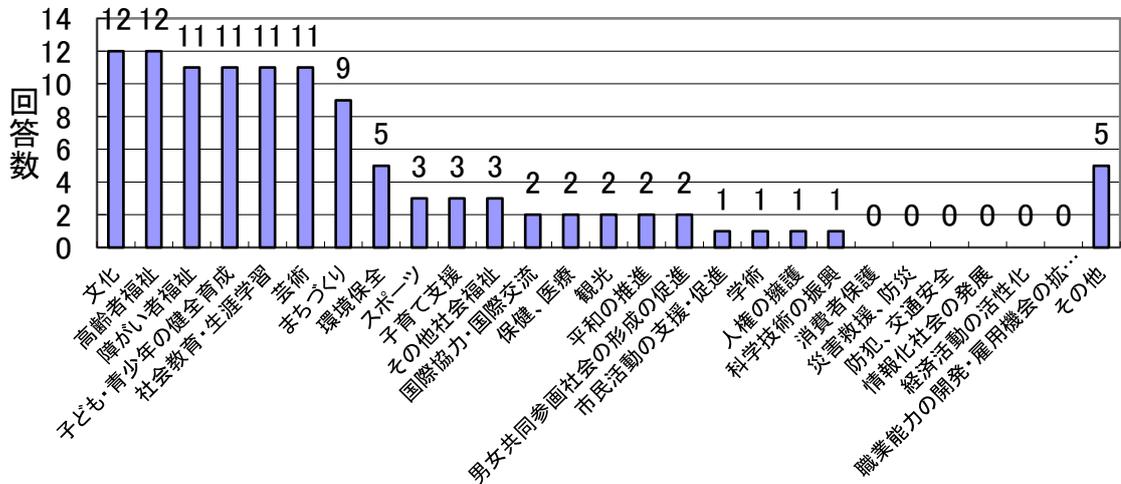
活動区分	全て(複数回答可)		最も力を 入れている	
	回答数	率	回答数	率
社会教育・生涯学習	48	12.4%	11	10.0%
子ども・青少年の健全育成	38	9.8%	11	10.0%
文化	35	9.0%	12	10.9%
高齢者福祉	34	8.8%	12	10.9%
芸術	31	8.0%	11	10.0%
その他社会福祉	27	7.0%	3	2.7%
障がい者福祉	25	6.5%	11	10.0%
子育て支援	25	6.5%	3	2.7%
まちづくり	22	5.7%	9	8.2%
市民活動の支援・促進	19	4.9%	1	0.9%
環境保全	10	2.6%	5	4.5%
国際協力・国際交流	9	2.3%	2	1.8%
男女共同参画社会の形成の促進	9	2.3%	2	1.8%
平和の推進	8	2.1%	2	1.8%
人権の擁護	7	1.8%	1	0.9%
保健、医療	6	1.6%	2	1.8%
学術	6	1.6%	1	0.9%
災害救援、防災	6	1.6%	0	0.0%
その他	5	1.3%	5	4.5%
スポーツ	5	1.3%	3	2.7%
観光	4	1.0%	2	1.8%
科学技術の振興	2	0.5%	1	0.9%
防犯、交通安全	2	0.5%	0	0.0%
経済活動の活性化	2	0.5%	0	0.0%
情報化社会の発展	1	0.3%	0	0.0%
職業能力の開発・雇用機会の拡充支援	1	0.3%	0	0.0%
消費者保護	0	0.0%	0	0.0%
合 計	387	100.0%	110	100.0%

団体基本概要:活動分野について



活動分野では「社会教育・生涯学習」が最も多く、次いで「子ども・青少年の健全育成」「文化」となっている。

団体基本概要:最も力のいれている分野



最も力を入れている分野は「文化」と「高齢者福祉」が同率で最も多く、「障がい者福祉」「子ども・青少年の健全育成」「社会教育・生涯学習」「芸術」が続いている。

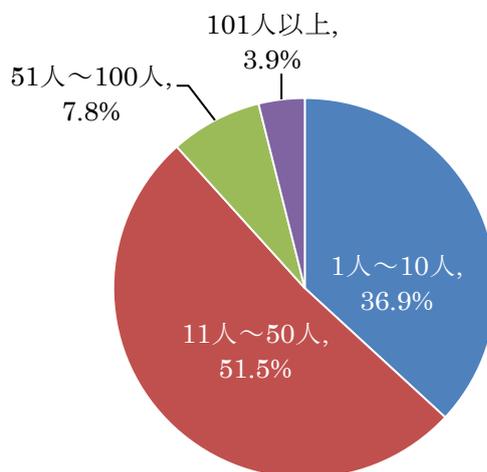
【自己紹介表④】活動対象地域

項目	回答数	率
江別市内	84	73.7%
江別市内及び近隣市町村	26	22.8%
北海道内全域	2	1.8%
国内全域	1	0.9%
その他	1	0.9%
合計	114	100.0%

活動対象地域は、江別市内が最も多く、次いで近隣市町村が多いのは前回調査と同様である。

【自己紹介表⑤】会員の規模

会員数	今回調査		前回調査(R3)	
	回答数	率	回答数	率
1人～10人	38	36.9%	24	28.2%
11人～50人	53	51.5%	41	48.2%
51人～100人	8	7.8%	8	9.4%
101人以上	4	3.9%	12	14.1%
合計	103	100.0%	85	100.0%

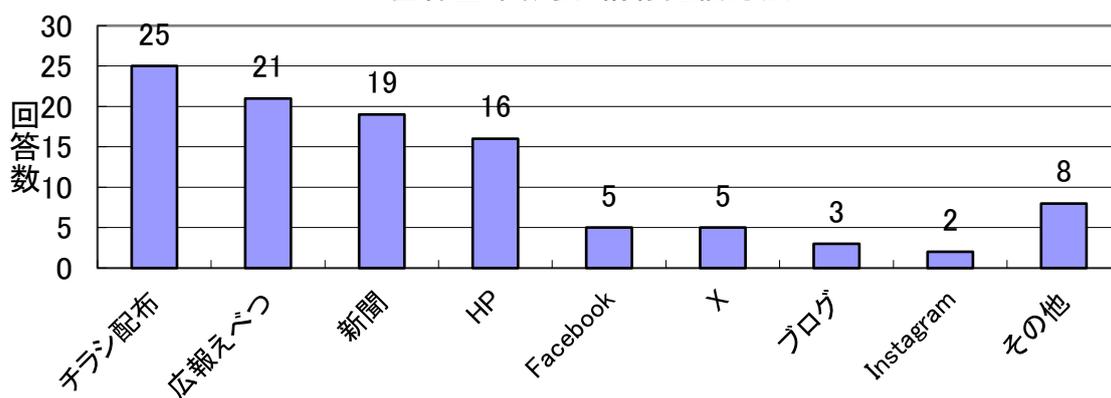


会員数では「1～10人」が28.2%から36.9%へ、「11～50人」が48.2%から51.5%へ増加している。51～100人は9.4%から7.8%へ減少し、101人以上の団体も減少傾向にある。

【自己紹介表⑥】 情報発信方法

項目	回答数	率
チラシ配布	25	26.6%
広報えべつ	21	22.3%
新聞	19	20.2%
HP	16	17.0%
Facebook	5	5.3%
X	5	5.3%
ブログ	3	3.2%
Instagram	2	2.1%
その他	8	8.5%
合計	94	100.0%

団体基本概要:情報発信方法



情報発信では「チラシ配布」が最も多く 26.6%を占め、次いで「広報えべつ」「新聞」が 2 割前後となっている。HP や SNS の活用も一定程度見られるが、紙媒体による発信が多い。

(1) 団体（グループ）の会員について

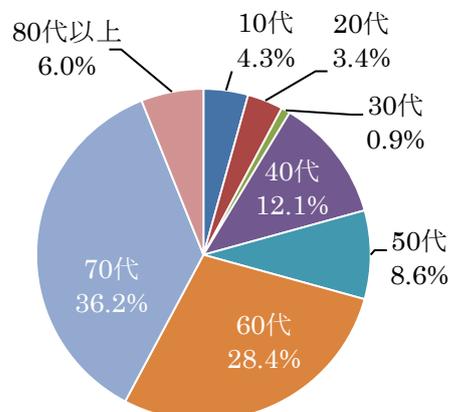
1-1-1. 会員の年齢幅

項目	何歳から		何歳まで	
	回答数	率	回答数	率
0-10 歳	8	6.9%	0	0.0%
11-20 歳	20	17.2%	1	0.9%
21-59 歳	59	50.9%	3	2.7%
60 歳-80 歳	29	25.0%	62	55.4%
81 歳以上	0	0.0%	46	41.1%
合計	116	100.0%	112	100.0%

前回同様、会員の年齢幅の傾向は 21 歳-80 歳までであるが、81 歳以上までいる団体も増加している。

1-1-2. 会員の年齢（最も多い年代）

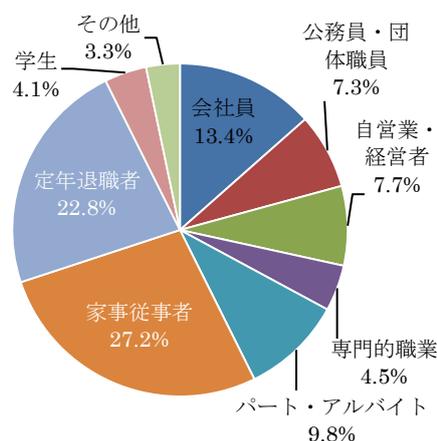
項目	今回調査		前回調査(R3)	
	回答数	率	回答数	率
10 代	5	4.3%	2	2.2%
20 代	4	3.4%	1	1.1%
30 代	1	0.9%	2	2.2%
40 代	14	12.1%	15	16.5%
50 代	10	8.6%	7	7.7%
60 代	33	28.4%	31	34.1%
70 代	42	36.2%	31	34.1%
80 代以上	7	6.0%	2	2.2%
合計	116	100.0%	91	100.0%



会員の年齢（最も多い年代）は、60代が28.4%、70代が36.2%と全体の多くを占めている。前回と比べて10代・20代・70代・80代以上が増加しており、特に70代以上は34.1%から36.2%へ増加している一方、30代・40代は減少しており、特に40代は16.5%から12.1%へ減少している。

1-2. 会員の職業

項目	回答数	率
会社員	33	13.4%
公務員・団体職員	18	7.3%
自営業・経営者	19	7.7%
専門的職業	11	4.5%
パート・アルバイト	24	9.8%
家事従事者	67	27.2%
定年退職者	56	22.8%
学生	10	4.1%
その他	8	3.3%
合計	246	100.0%

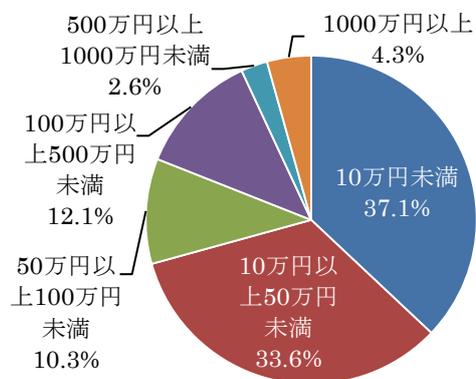


会員の職業は、「家事従事者」が27.2%と最も多く、次いで「定年退職者」22.8%、「会社員」13.4%と続いている。

(2) 団体（グループ）の組織・運営について

2-1. 年間活動資金

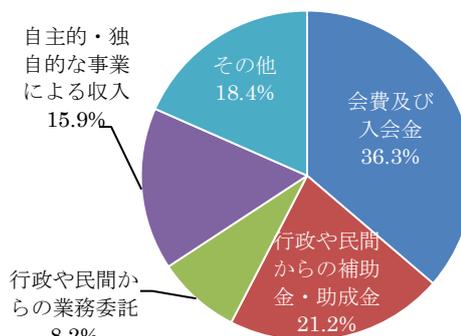
項目	今回調査		前回調査(R3)	
	回答数	率	回答数	率
10万円未満	43	37.1%	30	31.6%
10万円以上50万円未満	39	33.6%	29	30.5%
50万円以上100万円未満	12	10.3%	12	12.6%
100万円以上500万円未満	14	12.1%	12	12.6%
500万円以上1000万円未満	3	2.6%	7	7.4%
1000万円以上	5	4.3%	5	5.3%
合計	116	100.0%	95	100.0%



団体の年間活動資金は、「10万円未満」が31.6%から37.1%へ増加し、「10～50万円未満」も30.5%から33.6%へ増加している。一方で「500万円以上1000万円未満」は7.4%から2.6%へ減少しており、少額の活動資金で運営する団体が多い傾向にある。

2-2. 財源の割合（複数回答可）

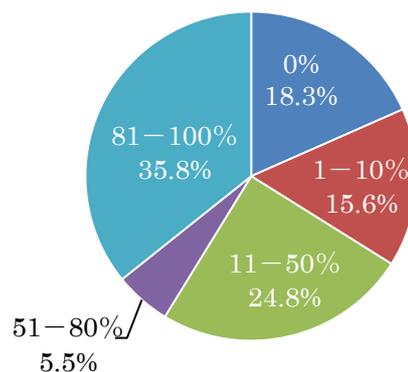
項目：総合	回答数	率
会費及び入会金	89	36.3%
行政や民間からの補助金・助成金	52	21.2%
行政や民間からの業務委託	20	8.2%
自主的・独自の事業による収入	39	15.9%
その他	35	18.7%
合計	245	100.0%



団体の財源は、「会費および入会金」の割合が36.3%と最も多い。一方で、「行政や民間からの業務委託」は8.2%と最も少ない結果となった。この傾向は、前回調査と同様である。

① 内訳：会費および入会金

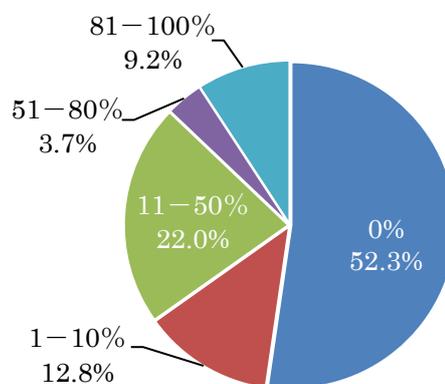
項目	回答数	率
0%	20	18.3%
1-10%	17	15.6%
11-50%	27	24.8%
51-80%	6	5.5%
81-100%	39	35.8%
合計	109	100.0%



会費および入会金が、「81-100%」と回答した団体が35.8%と最も多くなっている一方で、前回調査では「0%」と回答した団体は26.7%と2番目に多かったが、今回の調査では18.3%と3番目となった。

② 内訳：行政や民間からの補助金・助成金

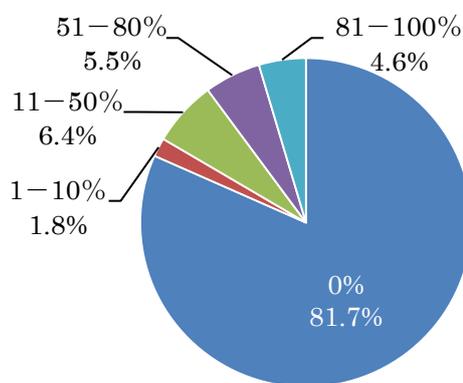
項目	回答数	率
0%	57	52.3%
1-10%	14	12.8%
11-50%	24	22.0%
51-80%	4	3.7%
81-100%	10	9.2%
合計	109	100.0%



行政や民間からの補助金・助成金が、「0%」と回答した団体が 52.3%と最も多く、次いで「11%～50%」と回答した団体が 22.0%となっている。この傾向は、前回調査と同様である。

③ 内訳：行政や民間からの業務委託

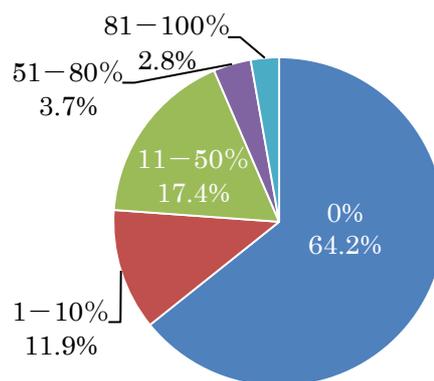
項目	回答数	率
0%	89	81.7%
1-10%	2	1.8%
11-50%	7	6.4%
51-80%	6	5.5%
81-100%	5	4.6%
合計	109	100.0%



行政や民間からの業務委託を受けている団体は、合計で約 18%となっている。

④ 内訳：自主的・独自の事業による収入

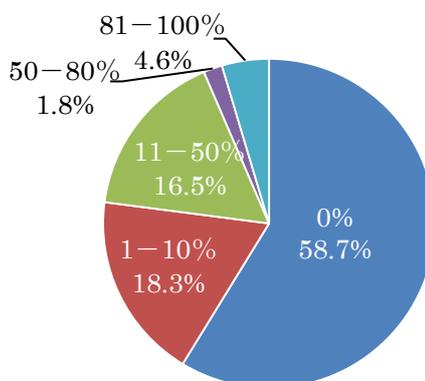
項目	回答数	率
0%	70	64.2%
1-10%	13	11.9%
11-50%	19	17.4%
51-80%	4	3.7%
81-100%	3	2.8%
合計	109	100.0%



自主的・独自の事業による収入が、「0%」と回答した団体が 64.2%と最も多い。

⑤ 内訳：その他

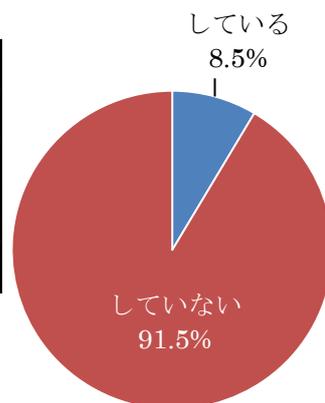
項目	回答数	率
0%	64	58.7%
1-10%	20	18.3%
11-50%	18	16.5%
50-80%	2	1.8%
81-100%	5	4.6%
合計	109	100.0%



その他に財源を持つ団体は、「0%」と回答した団体が 58.7%と最も多いが、次いで「1～10%」と回答した団体が 18.3%、11%以上を占めている団体も 16.5%あり、約 4 割の団体は上記以外の財源を確保していることが分かる。

2-3. 常勤スタッフの配置

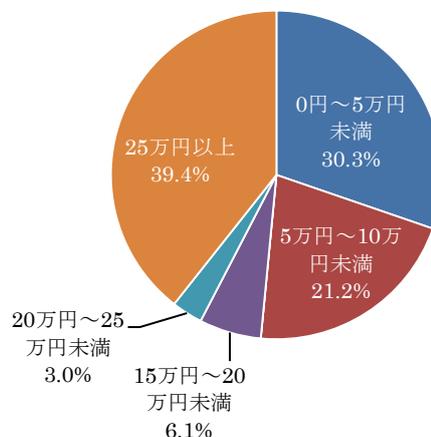
項目	今回調査		前回調査(R3)	
	回答数	率	回答数	率
している	10	8.5%	17	17.7%
していない	107	91.5%	79	82.3%
合計	117	100.0%	96	100.0%



常勤スタッフを配置「している」と回答した団体が前回と比べ約9.2%減少している。

2-4. 人件費

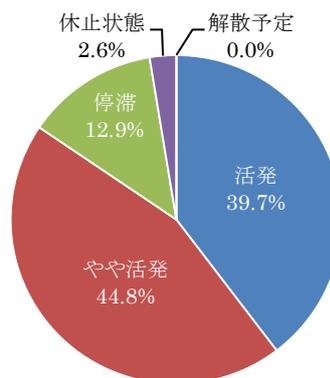
項目	人数	率
0円～5万円	10	30.3%
5万円～10万円	7	21.2%
10万円～15万円	0	0.0%
15万円～20万円	2	6.1%
20万円～25万円	1	3.0%
25万円以上	13	39.4%
合計	33	100.0%



人件費は「25万円以上」が39.4%と最も多く、次いで「0～5万円」も30.3%と高く、団体によって人件費にかける額の差が広がっている。

2-5. 活動状況

項目	今回調査		前回調査(R3)	
	回答数	率	回答数	率
活発	46	39.7%	25	24.8%
やや活発	52	44.8%	38	37.6%
停滞	15	12.9%	24	23.8%
休止状態	3	2.6%	7	6.9%
解散予定	0	0.0%	7	6.9%
合計	116	100.0%	101	100.0%



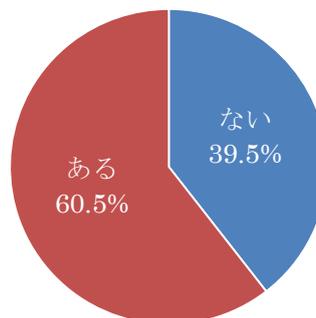
活動状況は「活発」「やや活発」を合わせると84.5%となり、前回(約62%)より大きく増加している。一方で「停滞」は23.8%から12.9%へ減少している。

(3) 団体（グループ）の悩みごと等について

3-1. 活動する上での悩み

① 人に関する悩み

項目	回答数	率
ない	47	39.5%
ある	72	60.5%
合計	119	100.0%

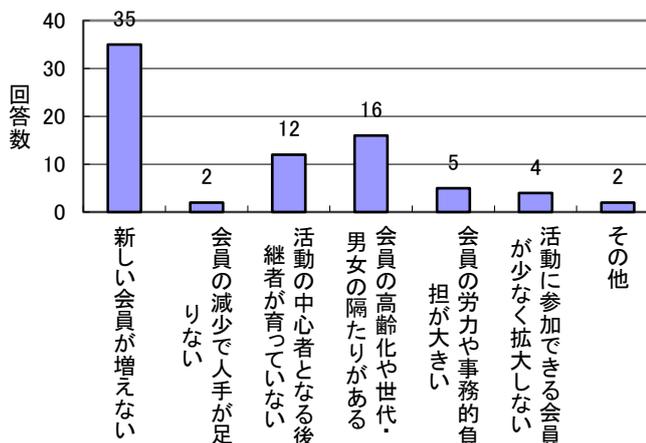


項目	一番目		二番目	
	回答数	率	回答数	率
新しい会員が増えない	35	46.1%	14	23.7%
会員の減少で人手が足りない	2	2.6%	8	13.6%
活動の中心者となる後継者が育っていない	12	15.8%	9	15.3%
会員の高齢化や世代・男女の隔たりがある	16	21.1%	7	11.9%
会員の労力や事務的負担が大きい	5	6.6%	11	18.6%
活動に参加できる会員が少なく拡大しない	4	5.3%	8	13.6%
その他	2	2.6%	2	3.4%
合計	76	100.0%	59	100.0%

★その他

- ・高校生と大学生は会費を免除しているが、経費が年々増加している
- ・若い世代の入会者が少ない
- ・手話サークル役員と兼ねている会員も多いので忙しい
- ・学習支援ボランティアの不足

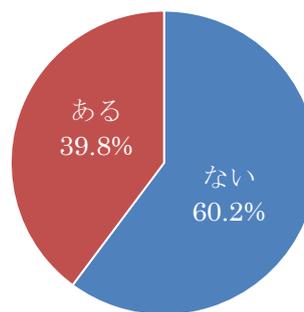
人に関する悩み：1番目の悩み



60.5%の団体が活動する上で、人に関する悩みが「ある」と回答し、その一番目の悩みとして「新しい会員が増えない」が46.1%という結果となったが、これは前回調査の同様の質問に対する40.0%を上回った。二番目の悩みも「新しい会員が増えない」が最も多く、会員の新規獲得に悩んでいる団体が多い。

②情報に関する悩み

項目	回答数	率
ない	71	60.2%
ある	47	39.8%
合計	118	100.0%

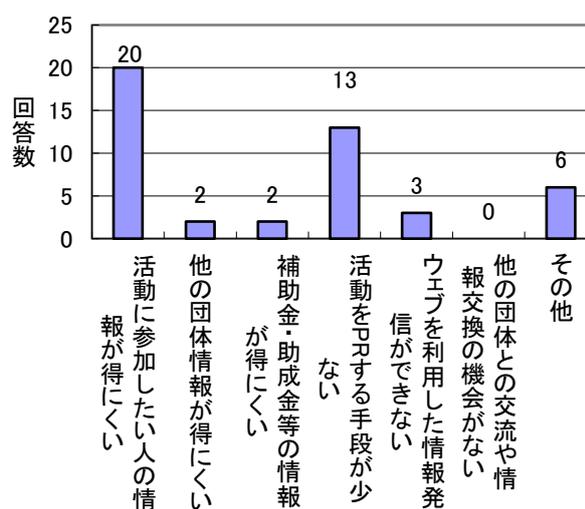


項目	一番目		二番目	
	回答数	率	回答数	率
活動に参加したい人の情報が得にくい	20	43.5%	2	7.7%
他の団体情報が得にくい	2	4.3%	1	3.8%
補助金・助成金等の情報が得にくい	2	4.3%	3	11.5%
活動をPRする手段が少ない	13	28.3%	9	34.6%
ウェブを利用した情報発信ができない	3	6.5%	3	11.5%
他の団体との交流や情報交換の機会がない	0	0.0%	7	26.9%
その他	6	13.0%	1	3.8%
合計	46	100.0%	26	100.0%

★その他

- ・福祉介護施設に活動をPRしても利用してくれない
- ・郵便料金の値上げにより情報発信が滞る
- ・お話会に参加してくれる親子が少ない
- ・定期発信が出来ない
- ・新しい利用者さんの情報を得る手段がない
- ・時代の流れの中で生の活動そのものは消滅の可能性があると考えている
- ・食品集めのためフードバンク事業の情報発信をしたいが、個人への直接提供をしていない旨を書いても個人からの連絡が絶えず発信情報の取捨選択、発信方法の難しさを感じている。

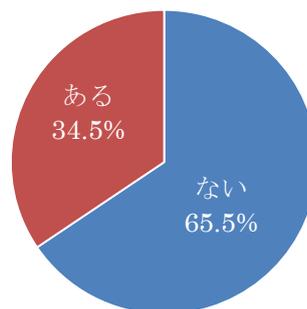
情報に関する悩み: 1番目の悩み



活動する上で、情報に関する悩みが「ある」団体は 39.8%であり、前回調査の 48.9%から減少している。「活動に参加したい人の情報が得にくい」を一番目の悩みとする団体が、前回と比べ 5%ほど増加した。

③お金に関する悩み

項目	回答数	率
ない	78	65.5%
ある	41	34.5%
合計	119	100.0%

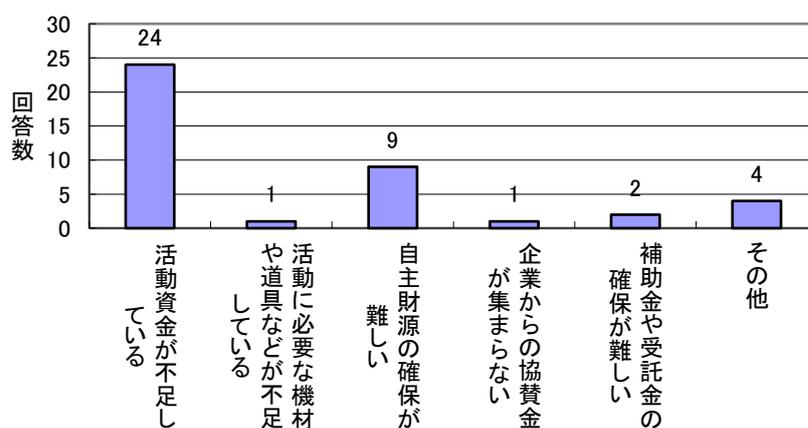


項目	一番目		二番目	
	回答数	率	回答数	率
活動資金が不足している	24	58.5%	3	13.0%
活動に必要な機材や道具などが不足している	1	2.4%	4	17.4%
自主財源の確保が難しい	9	22.0%	11	47.8%
企業からの協賛金が集まらない	1	2.4%	0	0.0%
補助金や受託金の確保が難しい	2	4.9%	5	21.7%
その他	4	9.8%	0	0.0%
合計	41	100.0%	23	100.0%

★その他

- ・家賃が高い
- ・物価高騰の影響により、諸経費に余裕がなくなった
- ・会員が増えて会費収入が増えればもっとやりたいことが実現出来る
- ・今までバサーで活動資金を得ていたが、日用品など品物が集まらない

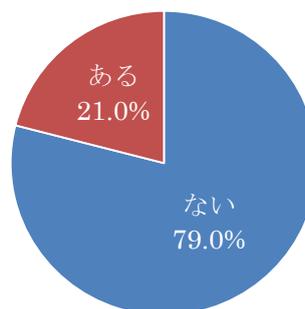
お金や場所に関する悩み:1番目の悩み



活動する上で、お金に関する悩みが「ある」と回答した団体が 34.5%という結果となった。内訳としては、一番目の悩みとして 58.5%が「活動資金が不足している」と回答した。二番目の悩みとしては「自主財源の確保が難しい」が多く 47.8%となっている。

④場所に関する悩み

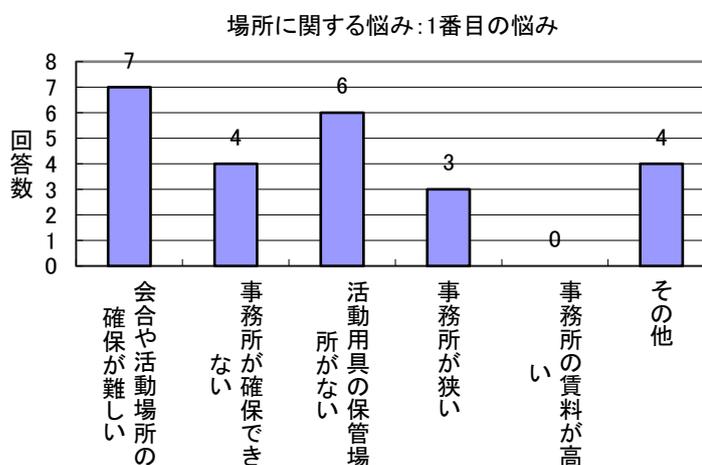
項目	回答数	率
ない	94	79.0%
ある	25	21.0%
合計	119	100.0%



項目	一番目		二番目	
	回答数	率	回答数	率
会合や活動場所の確保が難しい	7	29.2%	3	13.0%
事務所が確保できない	4	16.7%	2	8.7%
活動用具の保管場所がない	6	25.0%	6	26.1%
事務所が狭い	3	12.5%	0	0.0%
事務所の賃料が高い	0	0.0%	0	0.0%
その他	4	16.7%	0	0.0%
合計	24	100.0%	11	47.8%

★その他

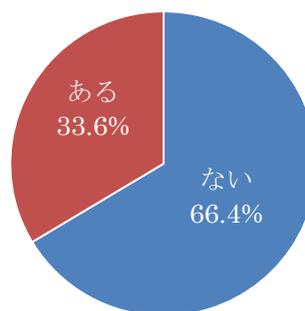
- ・活動場所の利用料が高い。時間の区分が1時間単位ではなく割高になる
- ・大麻集会所で活動しているが、夏は暑すぎて冬は寒い
- ・家主の都合で、事務所の移転の予定がある。
- ・普段活動している場所のWi-Fi環境が悪い



活動する上で、場所に関する悩みが「ある」と回答した団体が21.0%という結果となった。内訳としては、一番目の悩みとして「会合や活動場所の確保が難しい」が29.2%あり、二番目の悩みとして「活動用具の保管場所がない」が多く26.1%となった。

⑤その他の悩み

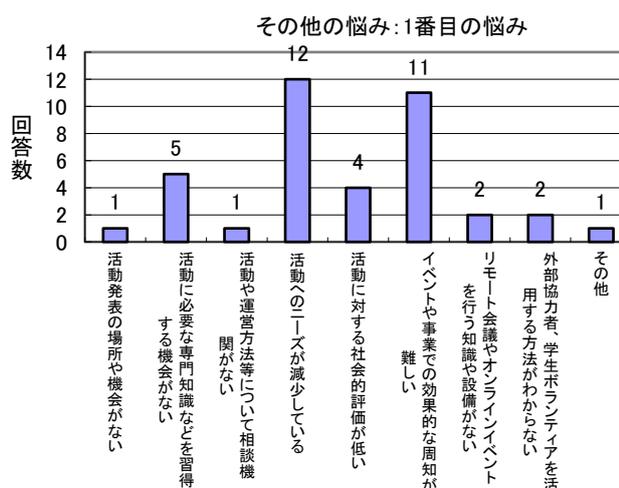
項目	回答数	率
ない	79	66.4%
ある	40	33.6%
合計	119	100.0%



項目	一番目		二番目	
	回答数	率	回答数	率
活動発表の場所や機会がない	1	2.6%	1	5.3%
活動に必要な専門知識などを習得する機会がない	5	12.8%	0	0.0%
活動や運営方法等について相談機関がない	1	2.6%	0	0.0%
活動へのニーズが減少している	12	30.8%	4	21.1%
活動に対する社会的評価が低い	4	10.3%	4	21.1%
イベントや事業での効果的な周知が難しい	11	28.2%	5	26.3%
リモート会議やオンラインイベントを行う知識や設備がない	2	5.1%	1	5.3%
外部協力者、学生ボランティアを活用する方法がわからない	2	5.1%	1	5.3%
その他	1	2.6%	3	15.8%
合計	39	100.0%	19	100.0%

★その他

広報や市議会だよりのデータを送るためのWi-Fiが情報図書館にない
 伝統芸能はその種類で社会的に賛同者・仲間づくりが大変である
 「何でももらえる場所」という認識があるのか、著しい汚れや状態の悪い中古品や賞味期限が数年切れた食品などを提供されることがあり、処分に費用と労力がかかっている
 新規会員を増やしていく方法がわからない

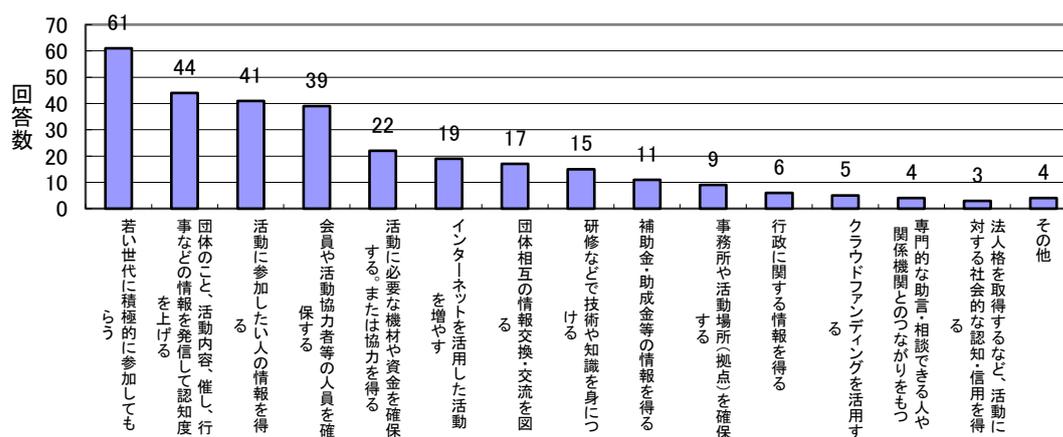


その他の悩みとしては、「活動へのニーズが減少している」が30.8%と最も多く、前回調査より14.1%増加している。

3-2. 団体の活動を更に発展させる方法

項目	回答数	率
若い世代に積極的に参加してもらう	61	20.3%
団体のこと、活動内容、催し、行事などの情報を発信して認知度を上げる	44	14.7%
活動に参加したい人の情報を得る	41	13.7%
会員や活動協力者等の人員を確保する	39	13.0%
活動に必要な機材や資金を確保する。または協力を得る	22	7.3%
インターネットを活用した活動を増やす	19	6.3%
団体相互の情報交換・交流を図る	17	5.7%
研修などで技術や知識を身につける	15	5.0%
補助金・助成金等の情報を得る	11	3.7%
事務所や活動場所（拠点）を確保する	9	3.0%
行政に関する情報を得る	6	2.0%
クラウドファンディングを活用する	5	1.7%
専門的な助言・相談できる人や関係機関とのつながりをもつ	4	1.3%
法人格を取得するなど、活動に対する社会的な認知・信用を得る	3	1.0%
その他	4	1.3%
合計	300	100.0%

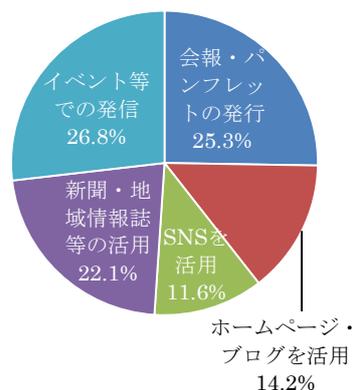
活動を更に発展させる方法



活動を更に発展させる方法として、「若い世代に積極的に参加してもらう」と考えている団体が61団体と最も多く、次いで「団体のこと、活動内容、催し、行事などの情報を発信して認知度を上げる」（44団体）、「活動に参加したい人の情報を得る」（41団体）、「会員や活動協力者等の人員を確保する」（39団体）となっている。

3-3. 情報発信の方法と頻度

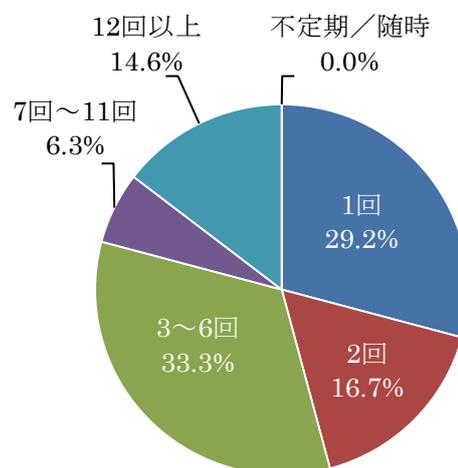
項目	回答数	率
会報・パンフレットの発行	48	25.3%
ホームページ・ブログを活用	27	14.2%
SNSを活用	22	11.6%
新聞・地域情報誌等の活用	42	22.1%
イベント等での発信	51	26.8%
合計	190	100.0%



情報発信の手法としては、「イベント等での発信」が26.8%と最も多く、SNSの活用は11.6%とやや少ない。

①会報・パンフレットの発行（年）

項目	回答数	率
1回	14	29.2%
2回	8	16.7%
3～6回	16	33.3%
7回～11回	3	6.3%
12回以上	7	14.6%
不定期／随時	0	0.0%
合計	48	100.0%



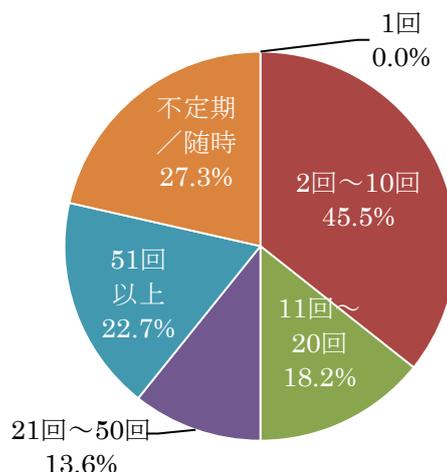
②ホームページ・ブログを活用

項目	回答数	率
1回	5	18.5%
2回～5回	9	33.3%
6回～10回	4	14.8%
11回～20回	7	25.9%
21回以上	2	7.4%
不定期／随時	11	40.7%
合計	27	100.0%



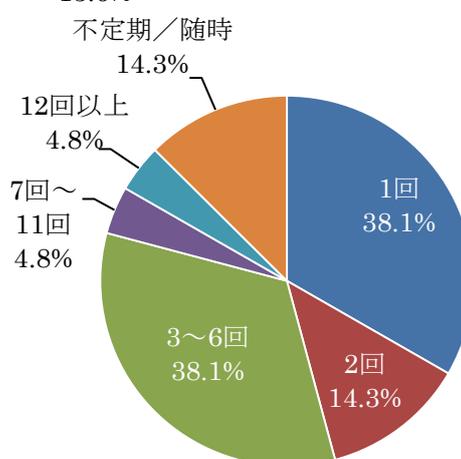
③SNS を活用

項目	回答数	率
1回	0	0.0%
2回～10回	10	45.5%
11回～20回	4	18.2%
21回～50回	3	13.6%
51回以上	5	22.7%
不定期／随時	6	27.3%
合計	22	100.0%



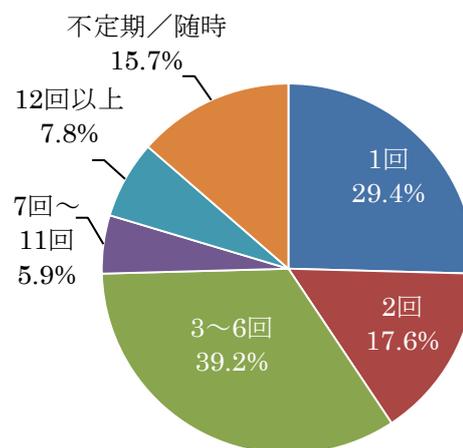
④新聞・地域情報誌等のメディア

項目	回答数	率
1回	16	38.1%
2回	6	14.3%
3～6回	16	38.1%
7回～11回	2	4.8%
12回以上	2	4.8%
不定期／随時	6	14.3%
合計	42	100.0%



⑤イベント等での発信

項目	回答数	率
1回	15	29.4%
2回	9	17.6%
3～6回	20	39.2%
7回～11回	3	5.9%
12回以上	4	7.8%
不定期／随時	8	15.7%
合計	51	100.0%

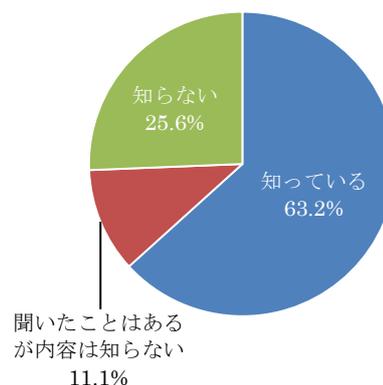


それぞれの頻度では、会報・パンフレットは「3～6回」が33.3%、ホームページ・ブログは「2～5回」が33.3%、SNSは「2～10回」が45.5%、新聞・地域情報誌等は「1回」と「3～6回」がともに38.1%、イベント等での発信は「3～6回」が39.2%と最も多くなっている。

(4) 団体（グループ）の周知啓発について

4-1-1. コラボのたねを知っているか

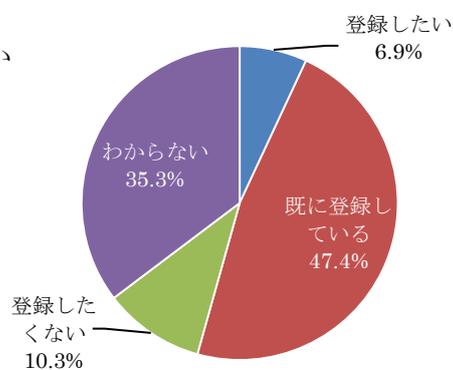
項目	回答数	率
知っている	74	63.2%
聞いたことはあるが内容は知らない	13	11.1%
知らない	30	25.6%
合計	117	100.0%



コラボのたねについては、63.2%の団体が「知っている」との回答だった。

4-1-2. コラボのたねへの登録を希望しますか

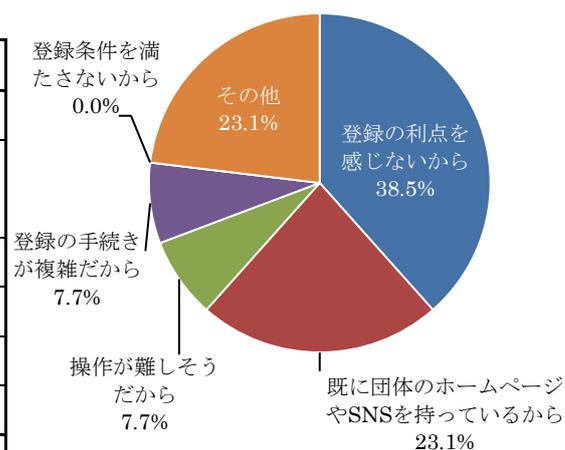
項目	回答数	率
登録したい	8	6.9%
既に登録している	55	47.4%
登録したくない	12	10.3%
わからない	41	35.3%
合計	116	100.0%



コラボのたねの登録の希望では、既に登録している団体を除くと、「登録したい」が6.9%、「登録したくない」が10.3%となっている。

4-1-3. コラボのたねに登録したくない理由

項目	回答数	率
登録の利点を感じないから	5	38.5%
既に団体のホームページやSNSを持っているから	3	23.1%
操作が難しそうだから	1	7.7%
登録の手続きが複雑だから	1	7.7%
登録条件を満たさないから	0	0.0%
その他	3	23.1%
合計	13	100.0%



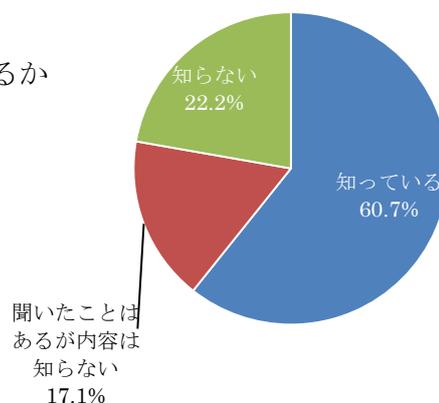
コラボのたねに「登録したくない」と回答した団体の理由としては、「登録の利点を感じないから」が38.5%と最も多く、次いで「既に団体のホームページやSNSを持っているから」が23.1%となっている。その他を回答した団体のうち、具体的な記述について以下に列記する。

★その他

- ・よく理解していない
- ・現在のままの活動で良いと思っているので
- ・文化協会に加入済のため

4-2-1. 「市民活動団体版出前講座」を知っているか

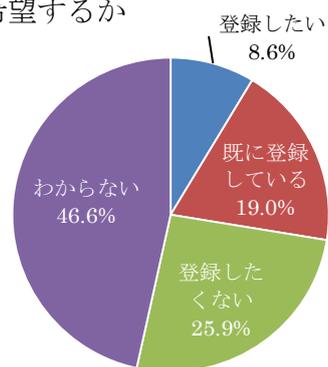
項目	回答数	率
知っている	71	60.7%
聞いたことはあるが内容は知らない	20	17.1%
知らない	26	22.2%
合計	117	100.0%



市民活動団体版出前講座については、60.7%の団体が「知っている」との回答だった。

4-2-2. 「市民活動団体版出前講座」への登録を希望するか

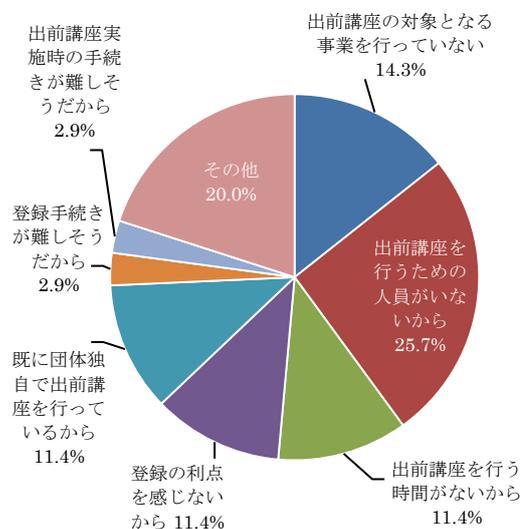
項目	回答数	率
登録したい	10	8.6%
既に登録している	22	19.0%
登録したくない	30	25.9%
わからない	54	46.6%
合計	116	100.0%



出前講座の登録の希望では、既に登録している団体を除くと、「登録したい」が8.6%、「登録したくない」が25.9%となっている。

4-2-3. 「市民活動団体版出前講座」に登録したくない理由

項目	回答数	率
出前講座の対象となる事業を行っていない	5	14.3%
出前講座を行うための人員がないから	9	25.7%
出前講座を行う時間がないから	4	11.4%
登録の利点を感じないから	4	11.4%
既に団体独自で出前講座を行っているから	4	11.4%
登録手続きが難しそうだから	1	2.9%
出前講座実施時の手続きが難しそうだから	1	2.9%
その他	7	20.0%
合計	35	100.0%



★その他

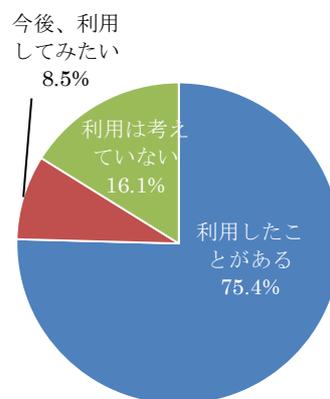
- ・個人の車椅子整備技術なので、出前講座に向かない内容なので
- ・あまり必要性を感じていない
- ・特定の団体で構成している会なので
- ・現在のままの活動で良いと思っているので
- ・活動の趣旨と合わないため
- ・手話関係は江別市手話講習会運営委員会が窓口となり、1本化しているから
- ・活動方法が異なるため
- ・出前講座として話すことが特にないから

前問で出前講座に「登録したくない」を回答した団体に、その理由を答えてもらったところ、「出前講座を行うための人員がないから」が25.7%、「出前講座の対象となる事業を行っていない」が14.3%となった。

(5) 市民活動センター・あいについて

5-1. 江別市民活動センターを利用したことがあるか

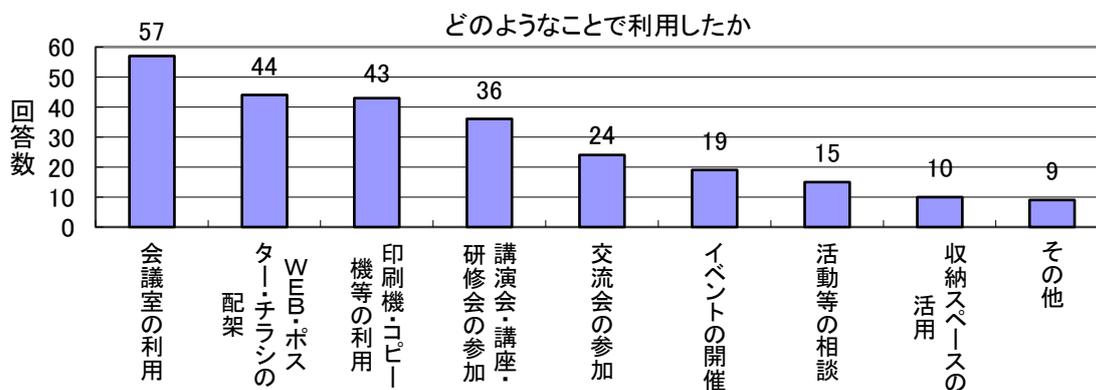
項目	回答数	率	回答数	率
利用したことがある	89	75.4%	67	72.8%
今後、利用してみたい	10	8.5%	11	12.0%
利用は考えていない	19	16.1%	14	15.2%
合計	118	100.0%	92	100.0%



同センターの利用について、「利用したことがある」は前回調査と比べ 2.6%増加、「今後、利用してみたい」は 3.5%減少している。

5-2. どのようなことで利用したか

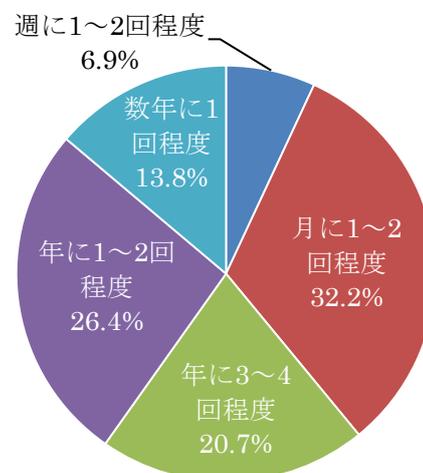
項目	回答数	率
会議室の利用	57	22.2%
印刷機・コピー機等の利用	43	16.7%
WEB・ポスター・チラシの配架	44	17.1%
講演会・講座・研修会の参加	36	14.0%
交流会の参加	24	9.3%
活動等の相談	15	5.8%
イベントの開催	19	7.4%
収納スペースの活用	10	3.9%
その他	9	3.5%
合計	257	100.0%



センターの利用目的では、「会議室の利用」が最も多く、次いで「WEB・ポスター・チラシの配架」「印刷機・コピー機等の利用」となっている。

5-3. 利用頻度

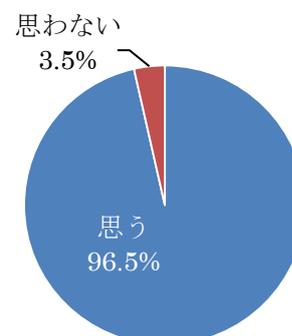
項目	回答数	率
週に1～2回程度	6	6.9%
月に1～2回程度	28	32.2%
年に3～4回程度	18	20.7%
年に1～2回程度	23	26.4%
数年に1回程度	12	13.8%
合計	87	100.0%



利用頻度は、「月に1～2回程度」が32.2%と最も多く、次に「年に1～2回程度」が26.4%となった。

5-4. 誰もが気楽に利用出来る場となっているか

項目	回答数	率
思う	82	96.5%
思わない	3	3.5%
合計	85	100.0%



◆誰もが気楽に利用出来る場となっていると「思わない」理由

- ・施設を知らない方々が多いのではと感じています
- ・認知度が低い
- ・利用する機会がないのもありますが、あまり知られてないような気がする

5-5. NPO 法人えべつ協働ねっとわーくに期待すること

(アンケートへの記載に基づいて掲載)

- ・活動のアナウンスの場所のひとつとして期待している
- ・月に 2 回までという利用回数制限がたまにネックになるところがあります。もっと利用したいです。
- ・音楽活動で利用することが多いため、防音対策があるといいと思っています。
- ・市民活動センター・あいがどの様な活動をしているのか、よく分かっていませんし、当会の様な趣味的団体は対象外ではと思っています。
- ・現行の路線を更に充実される様期待する
- ・立地や仕様の環境等とても使いやすく良いと思います
- ・市民への周知
- ・年に数回利用しています。お琴は場所をとるのと音が大きいので、希望した日に利用出来ないこともありますが、利用出来るときは気持ちよく使わせていただいています。
- ・サークルの活動で会議室を利用、またオンライン会議開催時にネット接続などでお世話になっています。ご親切にいつも大変助かっています。今後とも宜しく願います。
- ・相談体制が整っているとは言えない
- ・ホームページの運用などについての講演や研修会を開いて欲しい
- ・周知してもらえたら嬉しい。またまだ市民に届いていないので。
- ・活動見本市などで、他団体の活動の様子を知る事ができ良いと思う。
- ・いつもお世話になっています。活動告知が市内にまんべんなくできたらいいなあと思っています。
- ・企画事業運営の際の運営人員確保のご支援（以前お声かけいただき感謝しております）
- ・週末学習支援会に参加している児童生徒が楽しめるイベント企画（やさしい日本語による絵本読み聞かせ、紙芝居、人形劇、美術・工作教室など）を構想している。そのイベントに協力していただける団体を紹介していただきたい。
- ・日頃ボランティアに興味がない市民にも認知度が上がればと期待します
- ・ボランティア活動をしたい人の情報収集(募集等)と、マッチしそうな団体への斡旋
- ・他団体との交流
- ・以前に手書きノートのワークショップに参加しましたが、大変有意義でした。

5-6. 配慮して欲しい要望等(アンケートへの記載に基づいて掲載)

- ・ 道具を置けるスペースを設置してほしい
- ・ いつも快適に利用しています。給湯室の洗剤を石鹼成分のものにしてくれると嬉しいです。
- ・ メール配信等ネット利用や利用操作について指導・教えて貰えれば助かります。
- ・ 会議室の利用時間区分が細かくて利用しやすく、安価に利用出来るのが小規模団体としては利用しやすくて良いと感じます
- ・ 会議室 A・B の声・音漏れが気になる
- ・ いつも良く対応してくださりありがとうございます。特に物品保管、印刷機の利用など、ありがとうございます。困ったときの相談もありがたいです。
- ・ 利用しやすい料金でありがたい
- ・ 18時頃から借りても20時には予約が入っている場合があるので、午前の部、午後の部、夜間の部くらいの余裕を持った貸し時間帯に出来ないでしょうか？
- ・ 会議室の利用にあたり、空室状況に基づき申込手続きを WEB 上で行うようにしていただきたい。
- ・ カラーコピーの料金を安くしてほしい
- ・ 休日の夜間も使えるとありがたい
- ・ 「あい」さんには、様々な面で協力・支援いただき、感謝しています。しかしながら江別国際センターの保管スペースが手狭なため、教材・教具・遊び道具の保管が足りなくなっています。この面で支援いただけると幸いです。

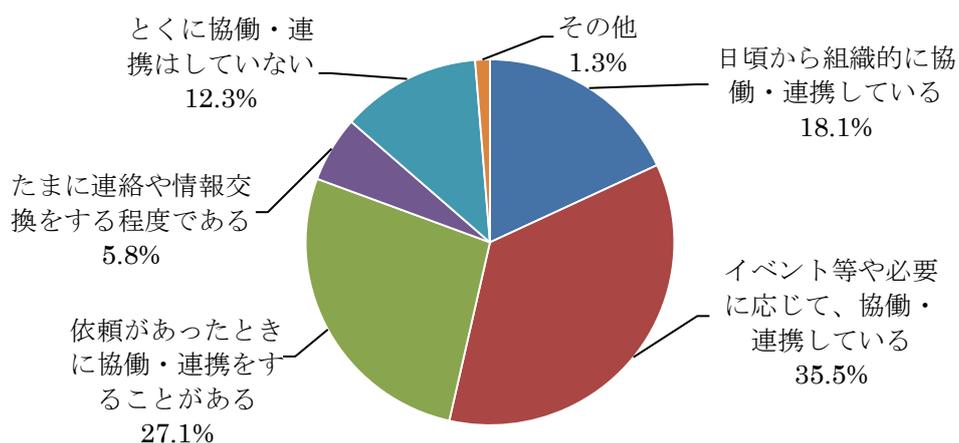
5-7. 「利用は考えていない」理由(アンケートへの記載に基づいて掲載)

- ・ 社協・福祉施設・町内会等との直接のやりとりのため
- ・ どこにあるのか、何があるのかわからないため。初めて聞いた。
- ・ 高齢化により、会の存続が難しくなっているため
- ・ 現在の活動で忙しく、これ以上の活動は無理があります。
- ・ よくわからないため
- ・ 小さなグループで、これ以上活動を広げることは考えていないため
- ・ 大麻地区で活動しているため
- ・ センターのことはまったくわかりません
- ・ 合唱の練習場としては難しいと思われるため
- ・ 現状で十分なので
- ・ 遠方のため
- ・ 活動場所は確保されているため必要ない

(6) 行政や他団体との協働・連携について

6-1-1. 協働・連携があるか

項目	回答数	率
日頃から組織的に協働・連携している	28	18.1%
イベント等や必要に応じて、協働・連携している	55	35.5%
依頼があったときに協働・連携をすることがある	42	27.1%
たまに連絡や情報交換をする程度である	9	5.8%
とくに協働・連携はしていない	19	12.3%
その他	2	1.3%
合計	155	100.0%



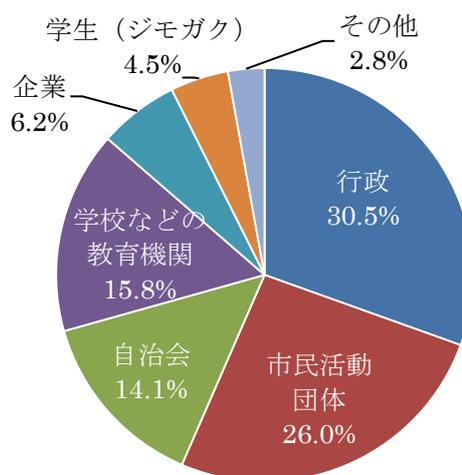
★その他

- ・必要に応じて学校と情報交換。子どもの実態など。
- ・市民合唱祭に出演

協働・連携があるかについて、「イベント等や必要に応じて～」が35.5%と最も多くなっており、次いで「依頼があったときに～」が27.1%と前回同様の傾向である。

6-1-2. 協働・連携して取組んだ活動

項目	回答数	率
行政	54	30.5%
市民活動団体	46	26.0%
自治会	25	14.1%
学校等の教育機関	28	15.8%
企業	11	6.2%
学生（ジモガク）	8	4.5%
その他	5	2.8%
合計	177	100.0%



協働・連携先としては、「行政」が 30.5%と最も多く、次いで「市民活動団体」が 26.0%となっており、前回調査と同様の傾向となっている。なお、具体的な内容は次頁の通りとなっている。

◆具体的な活動内容(アンケートへの記載に基づいて掲載)

イベント	<p>青年会議の写真展</p> <p>江別三中マンドリン部とのジョイントコンサート開催</p> <p>施設のクリスマスパーティー、演奏ボランティアとして参加</p> <p>新年会・敬老の日のイベントでの大正琴の演奏</p> <p>オカリナ演奏(さんかくまつり、ほっとひといき おしゃべり会、きらきら、e-たいむサロン、らららフェスティバル、自治会のクリスマス会・新年会・敬老会など)</p> <p>落語の会の開催</p> <p>エキテラ、勝手に応援ライブ、地区の高齢者ふれあい交流会、国際センターの集い</p> <p>情報図書館内でのイベントへの参加</p> <p>式典での演奏</p> <p>市民活動見本市の際に、手話歌あやとり等と協働して進行や歌詞などの文字情報提供</p> <p>日中文化交流サロン</p> <p>江別市民活動見本市に参加</p> <p>地域食堂開催時の補助</p> <p>慈善バザー</p> <p>自治会との共同事業、神社の奉納、千古園の奉納</p> <p>憲法九条を考える集い実行委員会(年3回集会、記念公演や映画会)</p> <p>対雁小学校での学校コンサート(音楽授業の一環)</p> <p>子ども食堂運営、非行防止標語募集、バザー</p> <p>江別市文化協会と連携(文化祭など)</p> <p>江別文化協会合唱ブロックでの合唱、市民合唱団など</p> <p>江別文化協会主催の江別文化祭 短歌大会に参加</p> <p>毎年10月「江別世界市民のつどい」(世界の料理・着物着付け)</p> <p>江別こどもまつり開催時に協力</p> <p>えべつ環境・SDGs 広場</p> <p>夏祭り等参加</p> <p>20周年記念事業 人形劇団えりっこ</p> <p>コンサートの開催、慰問ボランティアの斡旋</p> <p>えべつ健康フェスタ</p> <p>夏祭り</p> <p>市有施設での演奏会の共催</p> <p>お祭りの開催</p>
------	--

イベント	<p>ポケモン GO のイベント開催</p> <p>江別市民会館自主事業</p> <p>学校祭参加</p> <p>フォーラム野幌の森</p> <p>ママの夜会</p> <p>イベントの開催</p> <p>イベント等への出演</p> <p>お祭り等のイベントに参加依頼があったときは参加</p> <p>学校合唱部及び合唱団との合同コンサート開催</p> <p>市役所正面駐車場でのフリーマーケット開催</p> <p>自治会主催イベントに出演、手話歌を披露</p> <p>地域食堂</p> <p>江別市民文化祭こども文化祭に出演・運営</p>
------	---

講座・講演・研修会	<p>第二小学校での神楽体験授業</p> <p>市の出前講座を利用して講座を開いたことがある</p> <p>江別市内対象小学生のパークゴルフ教室開催</p> <p>江別屯田兵村開村記念式に協力</p> <p>炭鉄港についての学習会</p> <p>読み聞かせ養成講座①②（情報図書館、年2回）</p> <p>環境教育出前講座「買い物ゲーム」</p> <p>子どもにやさしいまちづくりを考える連続講座（ユニセフ講話含む）</p> <p>中央公民館講座「男のチューボー」開催（25年継続）</p> <p>防災研修（江別市危機管理）</p> <p>令和6年10月6日「江別市手話言語条例制定5周年記念講演会」運営</p> <p>講演会・学習会の共催（郷土資料館友の会、ユネスコ協会ほか）</p> <p>子ども科学教室の開催</p> <p>川柳教室開催（江別川柳会講師、5年目）</p> <p>野幌公民館と栄養士の発信事業（毎年）</p>
-----------	--

継続的活動・事業	<p>江別市への当会のおたより送付</p> <p>連携団体主催のイベント時の託児、市民活動団体出前講座の招聘、ジモガク学生のボランティア参加</p> <p>手話講習会の運営、講師派遣</p>
----------	---

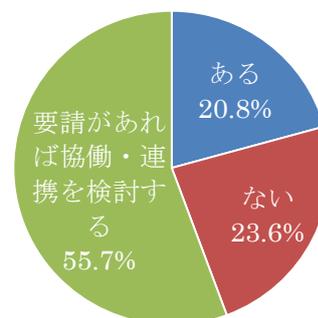
<p>継続的活動・事業</p>	<p>社協よりボランティア依頼対応（施設訪問など） 大麻・文京台地区まちづくり協議会への協力（会議や夏まつり等への役員派遣） 自立支援協議会への出席、酪農大学とのコラボ商品販売、ぽこあぽこでのワークショップ 情報図書館依頼での読み語り会（手島圭三郎絵本、3年継続） 「札幌えべつコンサート」開催に伴う小中学校児童招待（教育委員会と連携） 飛鳥山公園清掃活動、屯田兵歴史調査協力 小学生と一緒に手話歌をする 災害時の支援活動協力 相談業務の実施（社会福祉協議会） 演奏会開催時に後援をもらう 江別市文化協会合唱ブロックでの継続的活動 江別市文化協会短歌大会への継続参加 えべつ地球温暖化対策地域協議会の活動 フードサポートネットワークえべつ（交流会・情報交換会・出張フードパントリー） 江別国際センターとの連携（にほんご教室・子ども勉強会） 手話言語条例の活動 自連協・生涯学習・文化協会等のwebサイト管理運営 体育施設整備要望情報提供 活動支援（団体広報・助成金支援） 演劇公演の共催、協賛、協力 点訳講座への講師派遣 江別健康づくり協議会 手話学習会（市内手話サークル） LINE ワークス管理運営 出前講座として子ども向け行事での遊び提供 プログラミングを作って遊ぶ チャリティー展での寄付（社会福祉協議会へ） 江別市手話講習会の運営 自治連合会依頼での出前演奏会（年2-3回） 企業開催イベント時の託児 市内の支援学級へのおたより送付 北海鳴子まつりの参加</p>
-----------------	---

継続的活動・事業	市内のワーカーズと協力したイベント・講座開催 コミュニティセンターでロビーコンサート、えぼあホールでオー プンドアコンサート、訪問演奏 絵本の読み聞かせ 俳句・川柳サークルとの交流大会（年1回） 乳児健診時の親子絵本事業
----------	---

その他	江別市情報図書館イベントでの手話通訳依頼対応 留学生と高校生の交流会 理事会への職員出席 協力活動 生涯学習推進協議会 水棲生物の展示、環境講演 相談事業、在宅福祉サービス事業 毎月のイベント協力 情報提供をいただき、ブログ発信 団体広報や助成金の社会福祉協議会支援
-----	--

6-2. 今後協働・連携して取り組みたい活動

項目	回答数	率
ある	22	20.8%
ない	25	23.6%
要請があれば 協働・連携を検討する	59	55.7%
合計	106	100.0%



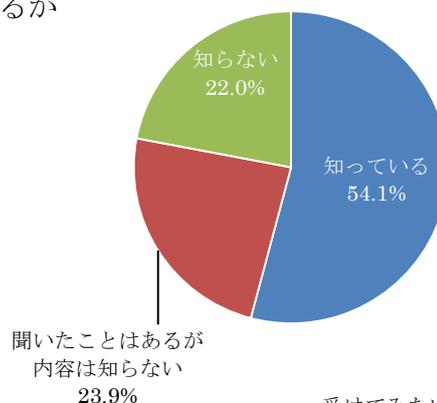
◆相手先と取り組みたい活動内容(アンケートへの記載に基づいて掲載)

- ・展示会等への参加
- ・学校などの教育機関と連携し手話言語の普及
- ・イベント時の託児を担当したい
- ・不登校や性教育など、市内で活動している講師がいれば、今後講師としてお招きして講座を開催したいと考えている
- ・絵本の紹介や講習会など
- ・マルシェなどのイベント開催
- ・防犯、防災などの講座を開催出来たらと思う
- ・どのような団体でもいいので、イベント開催時にぜひ文字情報をつけさせてほしいと思う。聞こえの不自由な人も参加出来るので。
- ・やきもの市での観光協会との連携
- ・学校などの教育機関と連携したい。木製戦闘機に関する周知活動
- ・まちづくり
- ・高齢者の困りごと相談
- ・家族の集いを自治会レベルでしたい
- ・行政及び各地の自治会等、小学校と連携し、子どもの見守りや多世代住民の協働活躍の場としての子ども食堂拡大に向けた活動。
- ・防災研修、聞こえない人への情報保証
- ・学校現場との協働による中高校生の国際理解教育推進モデル授業の開発や実施。
- ・新しいまちづくり：自治会運営の次世代システム構築
- ・全ての市民活動団体と様々な事を
- ・演劇を活用した地域活性化、街づくり活動
- ・子どものために行うものなら積極的に繋がりを持っていきたい
- ・同種団体のネットワークによる若者のセーフティーネットの充実

(7) 協働のまちづくり活動支援事業について

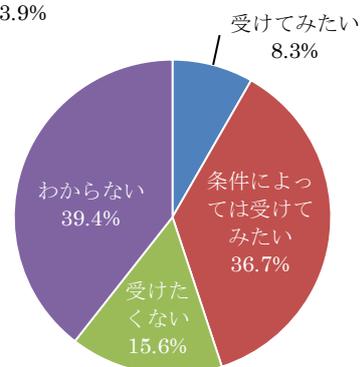
7-1. 協働のまちづくり活動支援事業を知っているか

項目	回答数	率
知っている	59	54.1%
聞いたことはあるが 内容は知らない	26	23.9%
知らない	24	22.0%
合計	109	100.0%



7-2. 協働のまちづくり活動支援事業を受けたいか

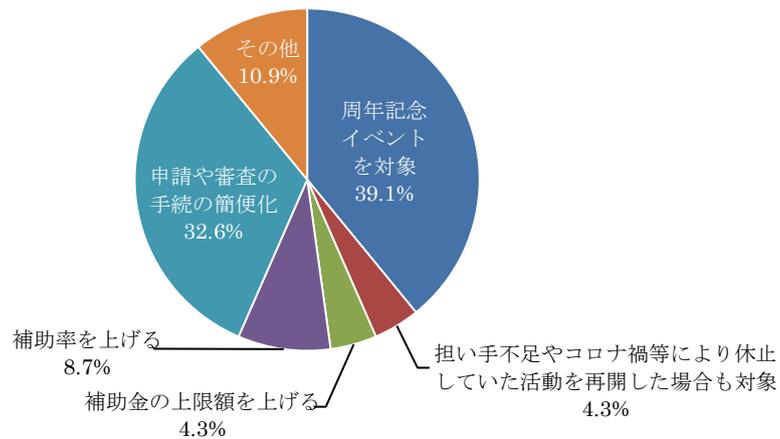
項目	回答数	率
受けたい	9	8.3%
条件によっては 受けたい	40	36.7%
受けたくない	17	15.6%
わからない	43	39.4%
合計	109	100.0%



7-3. (条件によっては受けたいと答えた団体)

どのような条件があれば受けたいか

項目	回答数	率
周年記念イベントを対象	18	39.1%
担い手不足やコロナ禍等により休止していた活動を再開した場合も対象	2	4.3%
補助金の上限額を上げる	2	4.3%
補助率を上げる	4	8.7%
申請や審査の手続の簡便化	15	32.6%
その他	5	10.9%
合計	46	100.0%



◆補助率の上限額

- ・ 50 万
- ・ 30 万

◆補助率

- ・ 事業額の 90%もしくは 1 団体 20 万円くらいまで補助する
- ・ 80%～全額助成

◆その他(アンケートへの記載に基づいて掲載)

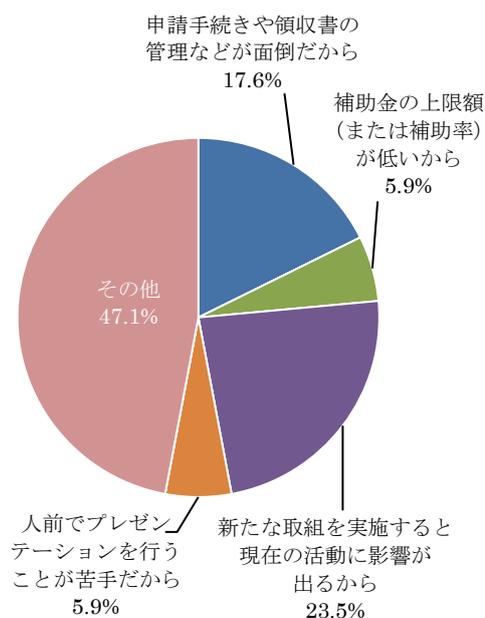
- ・ 地元幅広く存在をアピールできるのであれば
- ・ 活動メンバーが充実し、人手に余裕ができたなら
- ・ 実施したい企画が整い次第
- ・ 対象事業の内容が分からず、判断できない
- ・ 継続事業こそ補助金対象にすべき、備品等に金額の制限を付さない

7-4. 協働のまちづくり活動支援事業に受けたくない理由

項目	一番目の理由		二番目の理由	
	回答数	率	回答数	率
申請手続きや領収書の管理などが面倒だから	3	17.6%	1	16.7%
活動期間が補助対象期間外だから	0	0.0%	0	0.0%
補助金の上限額（または補助率）が低いから	1	5.9%	0	0.0%
新たな取組を実施すると現在の活動に影響が出るから	4	23.5%	0	0.0%
プレゼンテーション資料を選考会・報告会ごとに作成し、参加するのが負担だから	0	0.0%	2	33.3%
人前でプレゼンテーションを行うことが苦手だから	1	5.9%	0	0.0%
備品購入費や食糧費に制限がありメリットが少ないから	0	0.0%	1	16.7%
その他	8	47.1%	2	33.3%
合計	17	100.0%	6	100.0%

◆その他(アンケートへの記載に基づいて掲載)

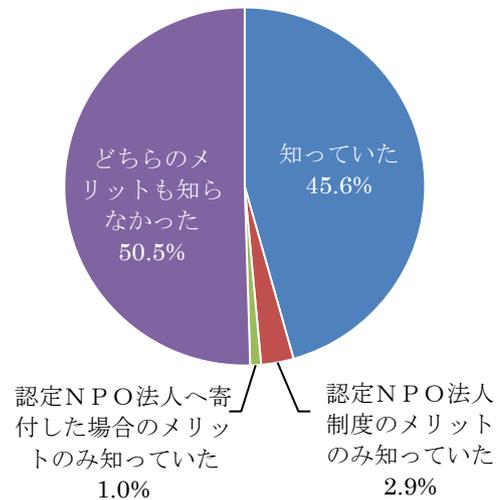
- ・特に必要性を感じない
- ・活動資金の悩みはないため
- ・事業費は会費で賄っているため
- ・活動の性質上、独自の企画・イベントに取り組むというより、他団体の活動の補佐的な立場にあたるため
- ・現状で十分なため
- ・現状の活動状況で、うまく行っていると思います。観光協会の指示をいただきながら活動中です。
- ・自主・自立的な活動だから
- ・構成員に行政が入っている団体のため、該当しないと思われます。
- ・現在の予算で何とかなっているから
- ・主体的な事業を行っていないから



(8) 認定NPO法人制度について

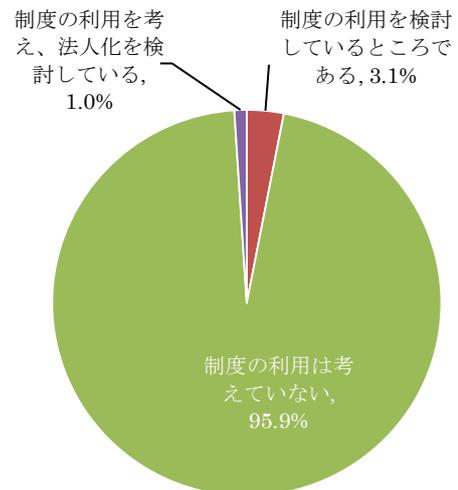
8-1. 認定NPO法人になるメリットを知っていたか

項目	回答数	率
知っていた	47	45.6%
認定NPO法人制度の メリットのみ知っていた	3	2.9%
認定NPO法人へ寄付 した場合のメリットの み知っていた	1	1.0%
どちらのメリットも知 らなかった	52	50.5%
合計	103	100.0%



8-2. 認定NPO法人による税制上の優遇措置制度の利用に対する考え方について

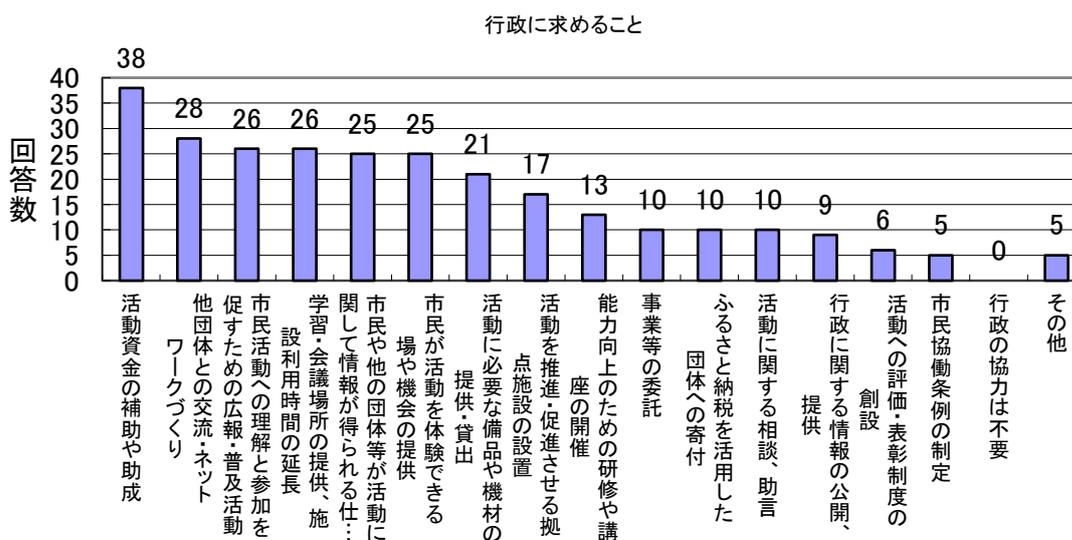
項目	回答数	率
制度の利用に向け、 準備を進めている	0	0.0%
制度の利用を検討し ているところである	3	3.1%
制度の利用は考えて いない	94	95.9%
制度の利用を考え、 法人化を検討してい る	1	1.0%
合計	98	100.0%



(9)その他

9-1. 行政に求めること

項目	回答数	率
活動資金の補助や助成	38	13.9%
他団体との交流・ネットワークづくり	28	10.2%
市民活動への理解と参加を促すための広報・普及活動	26	9.5%
学習・会議場所の提供、施設利用時間の延長	26	9.5%
市民や他の団体等が活動に関して情報が得られる仕組みの整備	25	9.1%
市民が活動を体験できる場や機会の提供	25	9.1%
活動に必要な備品や機材の提供・貸出	21	7.7%
活動を推進・促進させる拠点施設の設置	17	6.2%
能力向上のための研修や講座の開催	13	4.7%
事業等の委託	10	3.6%
ふるさと納税を活用した団体への寄付	10	3.6%
活動に関する相談、助言	10	3.6%
行政に関する情報の公開、提供	9	3.3%
活動への評価・表彰制度の創設	6	2.2%
市民協働条例の制定	5	1.8%
行政の協力は不要	0	0.0%
その他	5	1.8%
合計	274	100.0%



◆その他(アンケートへの記載に基づいて掲載)

- ・広報等によるPR活動
- ・もっと手続きを簡素にするべき
- ・現在の活動を維持できる環境の確保
- ・江別市は平和都市宣言を实のあるものにしてほしい
- ・江別市生涯学習推進協議会と目的・団体がかぶっている部分がある。市民からイベントが多すぎるとの声がある。合同で取り組めるものもあるのではないか。ら・ら・らフェスティバルと市民活動見本市など。

「活動資金の補助や助成」が13.9%と最も多く、「他団体との交流・ネットワークづくり」が10.2%と続く結果となった。

9-2. 新しい活動団体の情報

- ・にここ広場文京台
- ・e-city-p

9-3. その他要望等(アンケートへの記載に基づいて掲載)

長生民謡会は、ボランティア活動を主にしておりますが、民謡と言えば民舞がつきものですが、私共の会には踊れる人材がおりませんので、踊の会と共同でボランティア活動ができれば活動も充実するのではないかと常々感じています。

ふだん記江別は令和7年12月の冊子61号の発刊をもって休刊することになりました。会の名称は残りますが、活動自体は休止する予定です。

活動資金の制限、活動環境の悪化、会員の減少、役員の高齢化が顕著です。市の自然環境の改善に向けた予算、市職員の認識の貧弱さに呆れるばかりです。原始林と石狩川に抱かれたまちを標榜しているが、森も川も悪化するばかりで、何も手を打ってきていない。

このアンケートの問い合わせが多すぎます。

上記でも回答したが、市ならびに市教委は、市民団体側から、事業推進のため、行政情報を求めた場合は、積極的に開示・提供していただきたい。

いつもありがとうございます。ワークショップなどあれば、ぜひまた参加したいです。

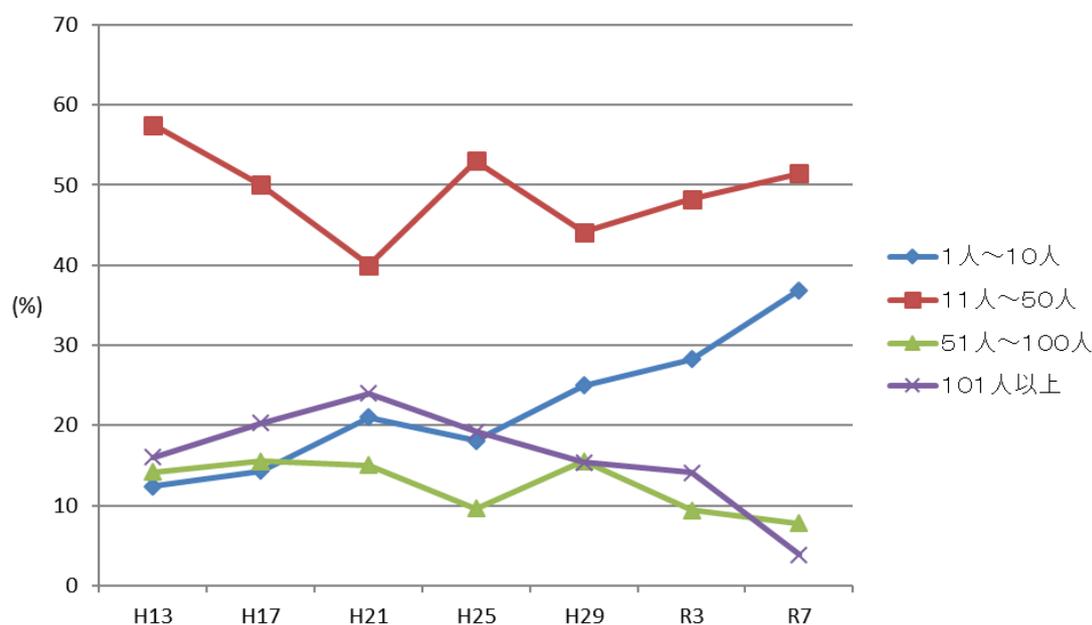
資料1 平成13年～令和7年の調査結果との比較

※有効回答数：平成13年(122)、17年(101)、21年(140)、25年(100)、29年(95)、令和3年(106)、令和7年(120)

(1) 会員の規模の推移

(%)

会員数	H13	H17	H21	H25	H29	R3	R7
1人～10人	12.4	14.3	21.0	18.1	25.0	28.2	36.9
11人～50人	57.5	50.0	40.0	53.0	44.1	48.2	51.5
51人～100人	14.2	15.5	15.0	9.6	15.5	9.4	7.8
101人以上	16.0	20.3	24.0	19.2	15.4	14.1	3.9



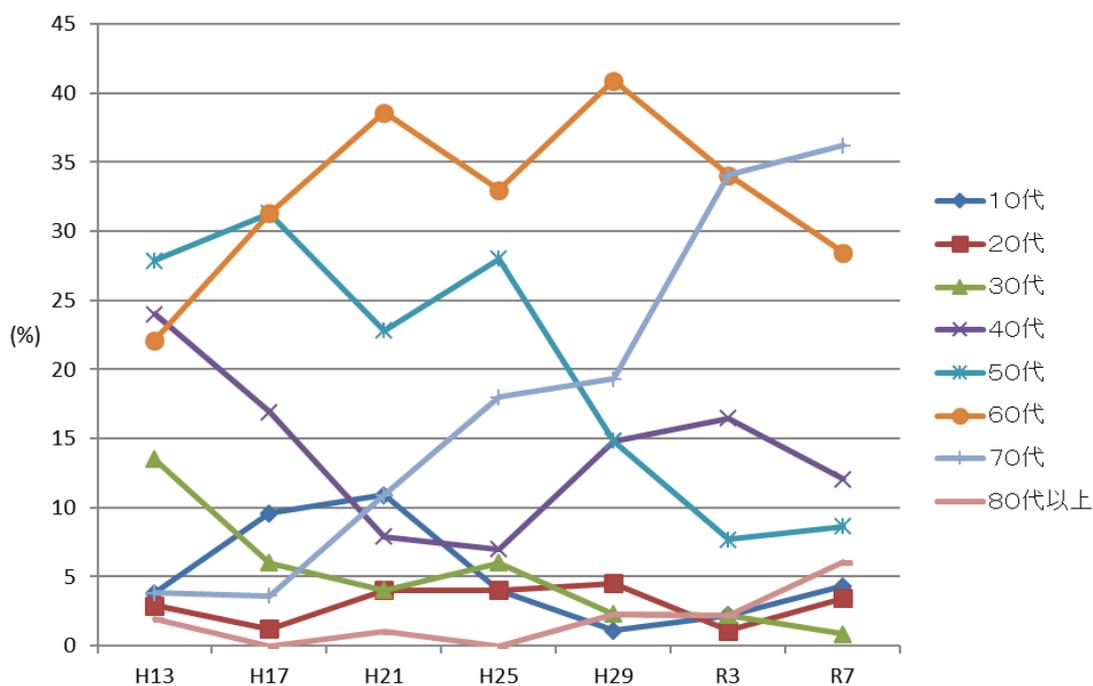
・1～10人の団体は28.2%から36.9%へ増加し、11～50人も48.2%から51.5%へ増加している。

・51～100人は9.4%から7.8%へ減少し、101人以上も14.1%から3.9%へ大きく減少している。

(3) 中心年代の推移

(%)

項目	H13	H17	H21	H25	H29	R3	R7
10代	3.8	9.6	10.9	4.0	1.1	2.2	4.3
20代	2.9	1.2	4.0	4.0	4.5	1.1	3.4
30代	13.5	6.0	4.0	6.0	2.3	2.2	0.9
40代	24.0	16.9	7.9	7.0	14.8	16.5	12.1
50代	27.9	31.3	22.8	28.0	14.8	7.7	8.6
60代	22.1	31.3	38.6	33.0	40.9	34.1	28.4
70代	3.8	3.6	10.9	18.0	19.3	34.1	36.2
80代以上	1.9	0.0	1.0	0.0	2.3	2.2	6.0



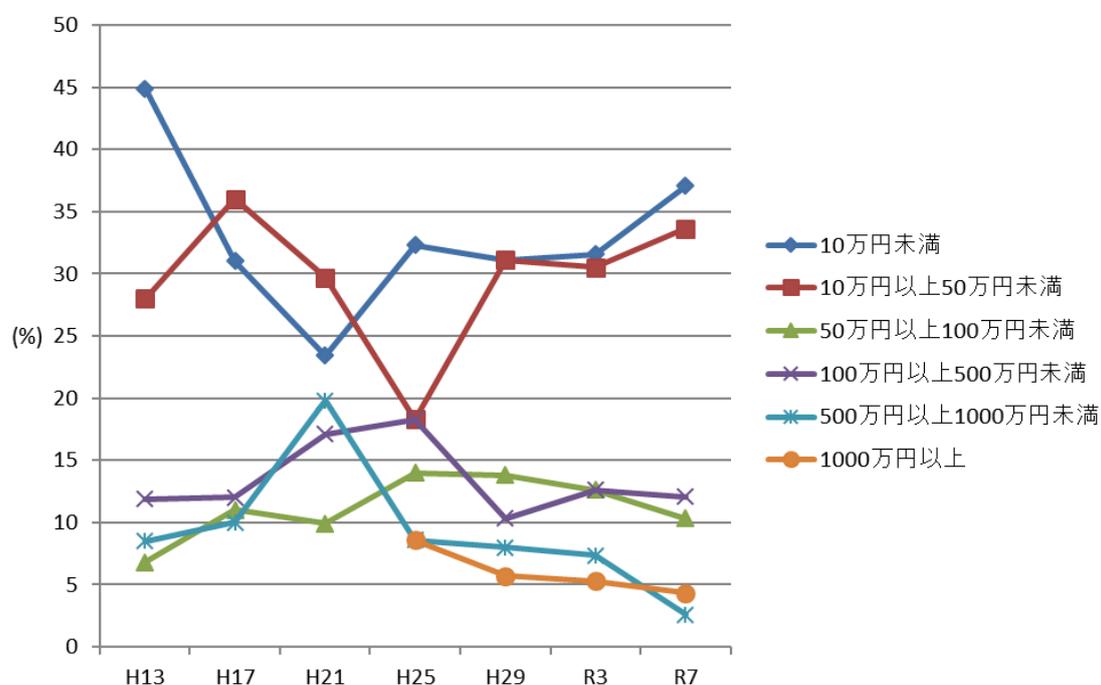
- ・40代は16.5%から12.1%へ減少しており、わずかに減少傾向にある。70代は34.1%から36.2%へやや増加し、年代で最も多い割合を占めている。
- ・50代は7.7%から8.6%とやや増加、60代は34.1%から28.4%へ減少しており、主だった層が70代に移行していることがうかがえる。
- ・80代以上は2.2%から6.0%へ増加している。

(4) 予算規模

(%)

項目	H13	H17	H21	H25	H29	R3	R7
10万円未満	44.9	31.0	23.4	32.3	31.1	31.6	37.1
10万円以上50万円未満	28.0	36.0	29.7	18.3	31.1	30.5	33.6
50万円以上100万円未満	6.8	11.0	9.9	14.0	13.8	12.6	10.3
100万円以上500万円未満	11.9	12.0	17.1	18.3	10.3	12.6	12.1
500万円以上1000万円未満	8.5	10.0	19.8	8.6	8.0	7.4	2.6
1000万円以上				8.6	5.7	5.3	4.3

※H13～21は、上限は500万円以上までの選択肢のみ



- ・ 10万円未満の団体は31.6%から37.1%へ増加し、10万～50万円未満も30.5%から33.6%へやや増加している。
- ・ 50万～100万円未満は12.6%から10.3%へ減少し、500万円以上の団体も減少傾向にある。
- ・ 100万～500万円未満はほぼ横ばいとなっている。

資料2 調査票

令和7年度 市民活動団体アンケート調査票 (回答用紙)

はじめに、あなたの団体(グループ)の概要についてお伺いします。

下の「団体(グループ)自己紹介表」に、あなたの団体(グループ)の概要をご記入ください。
この自己紹介表は、市民や他の各種団体等から問い合わせがあった場合、また、団体間の協働・交流などに活用したいと考えています。そのため、公開することも想定していますが、もし公開に不都合な項目がありましたら、各項目の左側の非公開欄に○印を付けてください。

■団体(グループ)自己紹介表

※「コラボのたね」登録団体は、登録情報に変更が無ければ団体の名称のみで構いません

※団体が解散している場合は、お手数ですがご連絡ください。

(↓非公開欄 公開が不都合な項目に○印を付けてください)

団体の名称	ふりがな		
代表者の氏名	ふりがな 氏名	連絡担当者の氏名	ふりがな
団体の住所・連絡先	〒 (様方) 電話: - - FAX: - -		
e-mail	@		
団体設立年月	年 月	会則(規約、定款)の有無	有・無
設立趣旨(目的)・活動内容	(具体的に記入してください)		
活動場所			
活動分野	(下の活動分野表から該当する番号を全て選び記入してください)	(左記のうち特に力を入れている分野1つを記入してください)	
団体のPR			
情報発信方法(活用している方法に○をつけてください。)	※HP、ブログについてはタイトル名を、SNSについてはアカウント名を差し支えがなければ記載いただけると幸いです。 広報えべつ 新聞 チラシ配布 HP(タイトル名:) ブログ(タイトル名:) X(アカウント名:) Facebook(アカウント名:) Instagram(アカウント名:) その他(具体的に)		
会員の規模:	10名以内 ・ 11名から50名 ・ 51名から100名 ・ 101名以上 その他(加入団体で構成されている場合: 団体)		
入会金や年会費の有無:	有 ・ 無		会員の募集: 募集している ・ 募集していない

【活動分野表】

- 1 保健、医療 2 高齢者福祉 3 子育て支援 4 障がい者福祉 5 その他社会福祉 6 社会教育・生涯学習
 7 まちづくり 8 学術 9 文化 10 芸術 11 スポーツ 12 環境保全 13 災害救援、防災 14 防犯、交通安全
 15 人権の擁護 16 平和の推進 17 国際協力・国際交流 18 男女共同参画社会の形成の促進
 19 子ども・青少年の健全育成 20 情報化社会の発展 21 科学技術の振興 22 経済活動の活性化
 23 職業能力の開発・雇用機会の拡充支援 24 消費者保護 25 市民活動の支援・促進 26 観光
 27 その他(具体的に)

【次にアンケート調査への回答をお願いします。】

1. あなたの団体（グループ）の会員についておたずねします。

- 1-1 会員の年齢構成についておたずねします。
- (1) 会員の年齢の幅は何歳から何歳ですか。
() 歳から () 歳まで
- (2) 会員のうちもっとも多い年代は次のうちどれですか。該当する番号に○印を付けてください。
- ① 10代 ② 20代 ③ 30代 ④ 40代
⑤ 50代 ⑥ 60代 ⑦ 70代 ⑧ 80代以上
- 1-2 会員の方は主にどのようなご職業の方が多いでしょうか。該当する番号の3つ以内に○印を付けてください。
- ① 会社員 ② 公務員・団体職員 ③ 自営業・経営者（農業・商業・工業等）
④ 専門的職業（医師・教員等） ⑤ パート・アルバイト
⑥ 家事従事者（主婦等） ⑦ 定年退職者
⑧ 学生 ⑨ その他 ()

2. あなたの団体（グループ）の組織・運営についておたずねします。

- 2-1 年間の活動資金はどの程度ですか。該当する番号に○印を付けてください。(令和6年度または令和5年度の決算額でお答えください)
- ① 10万円未満 ② 10万円以上50万円未満
③ 50万円以上100万円未満 ④ 100万円以上500万円未満
⑤ 500万円以上1000万円未満 ⑥ 1000万円以上
- 2-2 収入としている財源の割合についてお聞きします。(整数でお答え下さい)
- | | |
|-------------------|-------|
| ① 会費および入会金 | () % |
| ② 行政や民間からの補助金・助成金 | () % |
| ③ 行政や民間からの業務委託 | () % |
| ④ 自主的・独自の事業による収入 | () % |
| ⑤ その他 [寄付金など・] | () % |
| 合計 | 100 % |
- 2-3 常勤のスタッフは配置していますか。該当する番号に○印を付けてください。
- ① 配置している(2-4へ) ② 配置していない(2-5へ)
- 2-4 常勤スタッフのうち、有給のスタッフの人数と、1か月の人件費はどれぐらいですか。
- ・1円以上 ~ 5万円未満 () 名
・5万円以上 ~ 10万円未満 () 名
・10万円以上 ~ 15万円未満 () 名
・15万円以上 ~ 20万円未満 () 名
・20万円以上 ~ 25万円未満 () 名
・25万円以上 () 名
- 2-5 現在の活動状況は以下のどれですか。該当する番号に○印を付けてください。
- ① 活発 ② やや活発 ③ 停滞 ④ 休止状態 ⑤ 解散予定

3. あなたの団体（グループ）の悩みごと等についておたずねします。

3-1 現在、活動するうえで抱えている悩みとして、どのようなことがありますか。
次の（１）～（４）の各項目について、お聞きします。該当する番号に○印を付けてください。なお、悩みがあるを選択した場合は、該当するアルファベットに◎（一番目の悩み）と○（二番目の悩み）を一つずつ付けてください。

（１）人に関する悩みがある

- ① ない
- ② ある→ a. 新しい会員が増えない。
b. 会員の減少で人手が足りない。
c. 活動の中心者となる後継者が育っていない。
d. 会員の高齢化や世代・男女の偏りがある。
e. 会員の労力や事務的負担が大きい。（一部の会員に労力が集中する）
f. 活動に参加できる会員が少なく、活動が拡大していかない。
g. その他（具体的に： _____）

（２）情報に関する悩みがある

- ① ない
- ② ある→ a. 活動に参加したい人の情報が得にくい。
b. 他の団体の情報が得にくい。
c. 補助金・助成金等の情報が得にくい。
d. 活動をPRする手段が少ない。
e. ウェブを利用した情報発信ができない
f. 他の団体との交流や情報交換の機会がない。
g. その他（具体的に： _____）

（３）お金に関する悩みがある

- ① ない
- ② ある→ a. 活動資金が不足している。
b. 活動に必要な機材や道具などを購入できない。
c. 自主財源の確保が難しい。
d. 企業からの協賛金が集まらない。
e. 補助金や受託金の確保が難しい。
f. その他（具体的に： _____）

（４）場所に関する悩みがある

- ① ない
- ② ある→ a. 会合や活動場所の確保が難しい。
b. 事務所が確保できない。
c. 活動用具の保管場所がない。
d. 事務所が狭い。
e. 事務所の賃料が高い。
f. その他（具体的に： _____）

(5) その他の悩みがある

- ① ない
- ② ある→ a. 活動発表の場所や機会がない。
b. 活動に必要な専門知識などを習得する機会がない。
c. 活動や運営方法等について外部に適当な相談機関がない。
d. 活動へのニーズが減少している。
e. 活動に対する社会的評価が低い。
f. イベントや事業での効果的な周知が難しい。
g. リモート会議やオンラインイベントを行う知識や設備がない。
h. 外部協力者、学生ボランティアを活用する方法がわからない。
i. その他（具体的に： _____）

3-2 あなたの団体（グループ）の活動を、更に発展させる方法についてお聞きします。
必要と思うものに○印を付けてください（複数可）。

- ① 事務所や活動場所（拠点）を確保する。
② 活動に必要な機材や資金を確保する。または協力を得る。
③ クラウドファンディングを活用する。
④ 行政に関する情報を得る。
⑤ インターネットを活用した活動を増やす。
⑥ 団体のこと、活動内容、催し、行事などの情報を発信して認知度を上げる。
⑦ 活動に参加したい人の情報を得る。
⑧ 補助金・助成金等の情報を得る。
⑨ 団体相互の情報交換・交流を図る。
⑩ 専門的な助言・相談できる人や関係機関とのつながりを持つ。
⑪ 研修などで技術や知識を身につける。
⑫ 法人格を取得するなど、活動に対する社会的な認知・信用を得る。
⑬ 会員や活動協力者等の人員を確保する。
⑭ 若い世代に積極的に参加してもらう。
⑮ その他（具体的に： _____）

3-3 あなたの団体（グループ）の情報発信の方法と頻度についてお聞きします（複数可）。

- ① 会報・パンフレットの発行：年（ _____ ）回程度発行
② ホームページ・ブログを活用：年（ _____ ）回程度更新
③ SNSを活用：年（ _____ ）回程度更新
④ 新聞、地域情報誌等のメディアの活用：年（ _____ ）回程度掲載
⑤ イベント等での発信：年（ _____ ）回程度参加

4. あなたの団体（グループ）の周知啓発についておたずねします。

コラボのたね

4-1 「市民協働によるまちづくり」を掲げる江別市では、市内で公益的な活動を行っている市民活動団体の基本情報や団体として発信したい情報（イベント等）を団体自ら掲載することも可能な「コラボのたね」をホームページやカードにて展開しています。このことについてお聞きします。該当する番号に○印を付けてください。

- (1) 「コラボのたね」を知っていますか。
①知っている ②聞いたことはあるが内容は知らない ③知らない

- (2) 「コラボのたね」への登録を希望しますか。
 ① 登録したい ② 既に登録している ③ 登録したくない【(3)へ】 ④ わからない
- (3) 登録したくない理由を教えてください。(複数可)。
 ① 登録の利点を感じないから ② 既に団体がホームページやSNSを持っているから
 ③ 操作が難しそうだから ④ 登録の手続きが複雑だから
 ⑤ 登録条件(運営規則など活動目的・内容が記載されている書類が必要)を満たさないから
 ⑥ その他 ()

市民活動団体版出前講座

4-2 市内で活動している市民活動団体が、市民のもとに向いて、それぞれの団体の知識や特性を活かしたお話などをする「市民活動団体版出前講座」についてお聞きします。該当するものに○印を付けてください。

- (1) 「市民活動団体版出前講座」を知っていますか。
 ① 知っている ② 聞いたことはあるが内容は知らない ③ 知らない
- (2) 「市民活動団体版出前講座」への登録を希望しますか。
 ① 登録したい ② 既に登録している ③ 登録したくない【(3)へ】 ④ わからない
- (3) 登録したくない理由をお聞かせください(複数可)。
 ① 市民を対象とした講座などを行ったことがないから
 ② 出前講座を行うための人員がないから
 ③ 出前講座を行う時間がないから
 ④ 登録の利点を感じないから
 ⑤ 既に団体独自で出前講座(出前講座同様のものも含む)を行っているから
 ⑥ 登録手続きが難しそうだから
 ⑦ 出前講座実施時の手続きが難しそうだから
 ⑧ その他 ()

コラボニュース

4-3 江別市では、市民活動センター・あいと協働で江別の市民活動応援マガジン「えべつコラボニュース」を発行しています。あなたの団体がやっている活動を紹介してもよろしいですか。該当する番号に○印を付けてください。
 ① 紹介してほしい ② 紹介してほしくない

広報えべつ

4-4 江別市では、「広報えべつ」にて、令和3年12月から身近で行われている協働のまちづくり活動を紹介する記事「ふだんの生活にプラス1 ここにもあるある! 協働のまちづくり」を掲載しています。

- (1) この取組について知っていますか。
 ① 知っており、読んだことがある ② 知っているが、読んだことはない ③ 知らない
- (2) あなたの団体がやっている活動を紹介してもよろしいですか。該当する番号に○印を付けてください。
 ① 紹介してほしい ② 紹介してほしくない

5. 市民活動センター・あいについておたずねします。

市民交流施設がらっとには、市民活動の促進を目的に、関係団体間の情報交換や学びを行う「場」として、「NPO法人えべつ協働ネットわーく」が運営している「江別市民活動センター・あい」があります。このことについてお聞きします。該当するものに○印を付けてください。

(1) 利用状況についてお伺いします。

- ① 利用したことがある【(2)～(6)の設問にお答えください。】
- ② 今後、利用してみたい
- ③ 利用は考えていない【(7)へ】

(2) 上記(1)で「利用したことがある」と答えた方にお聞きします。

どのようなことで利用されましたか(該当するもの全てに○印を付けて下さい)。

- ① 会議室の利用
- ② 交流会の参加
- ③ 講演会・講座・研修会の参加
- ④ 活動等の相談
- ⑤ 印刷機・コピー機等の使用
- ⑥ イベントの開催
- ⑦ WEB・ポスター・チラシの配架
- ⑧ 収納スペースの活用
- ⑨ その他

(3) 利用頻度についてお聞きします。

- ① 週に1～2回程度
- ② 月に1～2回程度
- ③ 年に3～4回程度
- ④ 年に1～2回程度
- ⑤ 数年に1回程度

(4) 誰もが気楽に利用できる場となっていると思いますか。

- ① 思う
 - ② 思わない
- 【「② 思わない」を選択した団体様へ】
そう感じた理由をお聞かせください。

(5) 「NPO法人えべつ協働ネットわーく」は市内で活動する団体の中間支援組織として、「市民活動センター・あい」の運営を通して、団体の設立や運営などに関する相談や支援を行っています。その他に、あなたの団体(サークル)が活動を進めるうえで、さらに期待することはありますか。

(6) 利用に関して配慮してほしい点など要望があればお書きください。(開館時間、料金、窓口対応等)。

(7) (1)で③「利用は考えていない」と答えた方にお聞きします。

今後のセンター運営をよりよいものとするため、理由をお聞かせください。

6. 行政や他団体との協働・連携についておたずねします。

6-1 行政または他の団体等（他の市民活動団体、自治会、学校などの教育機関、企業など）との協働・連携事例についておたずねします。

(1) どの程度の協働・連携がありますか。該当するもの全てに○印を付けてください。

- ① 日頃から組織的に協働・連携している。
- ② イベント等や必要に応じて、協働・連携している。
- ③ 依頼があったときに協働・連携をすることがある。
- ④ たまに連絡や情報交換をする程度である。
- ⑤ とくに協働・連携はしていない。
- ⑥ その他 ()

(2) これまで協働・連携して取り組んだ活動で代表的なものについて、その相手や活動内容を具体的にお教えてください。

1	協働・連携先（該当するものを○で囲んでください。）
	行政 市民活動団体 自治会 学校などの教育機関 企業 学生（ジモガク） その他 ()
	具体的な活動内容
2	協働・連携先（該当するものを○で囲んでください。）
	行政 市民活動団体 自治会 学校などの教育機関 企業 学生（ジモガク） その他 ()
	具体的な活動内容

6-2 今後、行政または他の団体等と協働・連携して取り組んでみたい活動がありますか。該当する番号に○印を付けてください。

また、「ある」と回答した場合、その相手や内容をお教えてください。（※活動の事例については11ページで紹介していますので参考にしてください。）

- ① ある ② ない ③ 要請があれば協働・連携を検討する



相手先と取り組みたい活動内容

7. 協働のまちづくり活動支援事業についておたずねします。

江別市では、市民活動団体が市民や地域のニーズに対応した新たな取組みや、これまでの活動を拡大した取組みで、地域の課題解決や活性化が期待される公益的な事業を行う場合に、補助金を交付する「協働のまちづくり活動支援事業」を行っています。この活動支援事業についてお聞きします。該当するものに○印を付けてください。

- (1) 「協働のまちづくり活動支援事業」を知っていますか。
- ① 知っている
 - ② 聞いたことはあるが内容は知らない
 - ③ 知らない
- (2) 今後、この事業による支援を受けたいとお考えですか。(既に受けたことのある団体の方は、再び受けたいかどうかについてお聞かせ下さい。)
- ① 受けてみたい
 - ② 条件によっては受けてみたい (→(3)へ)
 - ③ 受けたくない (→(4)へ)
 - ④ わからない
- (3) どのような条件があれば、受けてみたいですか。
- ① (市民に広く開かれた) 周年記念イベントを対象
 - ② 担い手不足やコロナ禍等により休止していた活動を再開した場合も対象
 - ③ 補助金の上限額を上げる (15万円→ 万円くらい)
 - ④ 補助率を上げる (事業費の2/3→ くらい)
 - ⑤ 申請や審査の手続の簡便化
 - ⑥ その他 ()
- (4) 受けたくない理由をお聞かせください。一番目の理由に◎、二番目の理由に○印を付けてください。
- ① 申請手続きや領収書の管理などが面倒だから
 - ② 活動期間が補助対象期間外だから
 - ③ 補助金の上限額 (または補助率) が低いから
 - ④ 新たな取組 (前年度に行った事業に対して新たな取組を加えたものや、少しずつステップアップしていくような事業 (例: 活動範囲の拡大)) を実施すると現在の活動に影響が出るから
 - ⑤ プレゼンテーション資料を選考会・報告会ごとに作成し、参加するのが負担だから
 - ⑥ 人前でプレゼンテーションを行うことが苦手だから
 - ⑦ 備品購入費や食糧費に制限がありメリットが少ないから
 - ⑧ その他 ()

- 9-2 市では、新しい市民活動団体(グループ)の情報を集めています。最近一年以内に発足した、あるいは、これから発足しようとする団体をご存知でしたら、是非ご紹介ください。

●団体名	_____
●代表または連絡者氏名	_____
●連絡先	
電話()	-
Eメール	@
●活動内容	_____

- 9-3 その他、お気づきの点や、市民活動や協働の促進に関する要望等(研修会等の開催希望テーマを含む)がありましたらお書き下さい。

※以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒にて 6月30日(月)までにご返送ください。
(※ 未回答の設問があっても構いません。)

別紙

※協働の取り組みを考えるときの参考として、全国の活動事例を紹介します。

【市民活動の事例】

保健・医療・福祉の分野	高齢者・障がい者の介護、難病者の支援、高齢者への給食サービス、アルコール・薬物依存者へのケア、共同作業所、禁煙権の運動、高齢者・障がい者の移動サービス、自然食の生産・販売、救急医療の普及、聴覚障がい者への点字・手話・声のボランティア、自立生活・作業所の支援、障がい児保育、病気の予防グループ
社会教育の分野	消費者保護・教育、生涯学習の支援、高齢者海外学習の支援、高齢者大学の運営
まちづくりの分野	歴史的建造物の保存、地域おこし、情報誌の発行、まちの清掃活動、フラワーガーデン運動、都市と農村の交流、コミュニティづくり、地域産業の活性化、地域振興、自治体のオンブズパーソン(行政監査)
文化・芸術・スポーツの分野	民間博物館、スポーツイベントの支援、伝統文化の継承、美術館解説ボランティア、市民オーケストラ、スポーツ指導(教室)、演劇鑑賞会、芸術家の支援、映画の上映会
自然・環境保全の分野	動物愛護、野鳥の保護、樹木の観察、森林保全、河川の浄化、再生紙利用、ナショナルトラスト(自然・建造物の保全)、リサイクル運動、住環境の保全
災害救助、地域安全の分野	自然災害の救助、人的災害の救援、災害被害者への支援、災害の予防活動、交通安全活動、犯罪の防止活動、犯罪者の社会復帰支援
人権擁護、平和推進、国際協力の分野	差別に対する活動、子どもの虐待防止、家庭内暴力からの保護、SOGI 啓発・LGBT 等性的少数者支援、ホームレスの生活支援、法律相談、国際交流活動、難民支援、在日外国人の生活支援、留学生支援、日系外国人の帰国者支援
男女共同参画社会形成、子どもの健全育成の分野	女性の自立支援、女性の地位向上、女性の働く環境をつくる運動、セクシャルハラスメントを防止する活動、女性の雇用均等を求める活動、家庭内暴力防止センター、シェルターハウス(一時保護施設)、遊びの伝承、非行防止、本の読み聞かせ会、ボーイスカウト、ガールスカウト、不登校児支援(フリースクール、親の会)、いじめ問題 110 番、命の電話、託児所、地域の子ども会、地域の子育て支援、地域食堂、子ども食堂、学童保育、グループ保育
市民活動支援の分野	市民活動サポートセンター、市民活動への助成、民間助成、ボランティアセンター、市民活動にインターネット利用を進める活動、市民団体の立法支援、善意銀行、市民バンク(市民活動への融資)、企業・自治体への市民活動の紹介、市民活動の情報提供